

文学研究科

哲学専攻

史学専攻

国文学専攻

英米文学専攻

ドイツ文学専攻

フランス文学専攻

新聞学専攻

文化交渉学専攻

1. 文学研究科の教育研究上の目的及び人材養成の目的

幅広い教養と柔軟な思考力を持ち、世界と未来に開かれた新しい知を創造する力を伸ばすために、文化の総体の探究、現代社会との連結、語学能力の重視に重点を置いた実践教育を行い、社会、文化の発展に貢献しうる人材を養成する。

前期課程では、研究者の養成を目指すとともに、高度な専門知識によって職業的能力を向上させる。後期課程では、国際的な水準で広く活躍し、将来、各々の分野で研究・教育に携わる人材の育成を期する。

2. 各専攻のディプロマ・ポリシー

哲学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 西洋哲学史全般に関する基礎知識をもとに、各自の研究テーマを掘り下げて、じっくり考える力と、時流に流されない深い学識
2. 現代社会のグローバルな危機に対して、対症療法に終わらない深い次元から解決の方向を見出す洞察力と賢慮
3. 複数の外国語（英・独・仏・ギリシア・ラテン）を読む力と難解な古典文献の読解力
4. 書き言葉と話し言葉の両面にわたる適切な表現の能力および文化的に異なる背景をもった人々を説得できる力
5. 専門分野の研究実践能力を獲得し、修士論文をまとめる力

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 論文の個人指導や国内外の研究者との交流を通して得た知識により、学会での発表ができる能力と、それらを踏まえ博士論文としてその成果をまとめる能力
2. 複数の外国語（英・独・仏・ギリシア・ラテン）を読む力と難解な古典文献の読解力
3. 書き言葉と話し言葉の両面にわたる適切な表現の能力および文化的に異なる背景をもった人々を説得できる力
4. 専門研究者として、大学等の高等教育機関において教育・指導にあたる能力

史学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位を修得し、研究指導を受けたうえで修士論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 明確な問題意識に基づいてテーマ設定ができ、歴史研究の知識向上に寄与できる力
2. 先行研究を十分に検討・吟味し、出典の記載や引用を適切に行うことができる力
3. 史・資料に基づいた実証研究を行うことができる力
4. 論文作成において、的確な論文構成や整合性のある論理構成をとることができる力
5. 適切な言語表現ができ、論文全体を整った体裁にまとめることができる力

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けたうえで、博士論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 明確な問題意識に基づいてテーマ設定ができ、対象分野に関する新しい史実の発見、ないしは既知の史実に対する新しい解釈の提示ができる力
2. 先行研究を網羅的に検討・吟味し、出典の記載や引用を適切に行うことができる力
3. 史・資料に基づく実証研究を行うことができる力
4. 論文作成において、的確な論文構成や整合性のある論理構成をとることができる力
5. 適切な言語表現ができ、論文全体を整った体裁にまとめることができる力
6. 独創的かつ先端的な研究を行い、自立的研究者として研究を遂行できる力

国文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力と教育実践能力を有し、広く社会、世界に貢献することができる能力
2. 国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づいた、教育者としての能力を養成することができる能力
3. 高度な知識と緻密な分析に依拠し、的確に構成された修士論文を書く能力

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張り、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づいた、教育ができる能力
2. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張り、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力と教育実践能力を有し、広く社会、世界に貢献することができる能力
3. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張り、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づき、国文学の伝統を継承し、発展させる意欲を持ち、自立した研究活動を展開する、研究者として自立できる能力
4. 自立した研究者として、学会での口頭発表・学術論文の執筆を踏まえ、博士論文としてその成果をまとめる能力

英米文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。キリスト教的ヒューマニズムに基づき、英米文学を西欧文明という大きな全体の一環をなす試みとして理解し研究した学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め学位を授与します。

1. 人文学的な教養を基礎とし、英米文学、英語学・英語教育を歴史、宗教、思想、文化の諸領域との広範なつながりを射程に入れて理解することができる力
2. 研究や教育を遂行するための高度な英語能力と基礎からの研究能力
3. 英米の文学・思想・文化、英語学・英語教育についての体系的かつ専門的な知識
4. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力

5. 専門研究者として大学等の高等教育研究機関において教育や研究に当たるにふさわしい能力（Aコース）
6. 英米文学や英語学の高度な知見をもって英語教育を行なう中高教員，その他の職業に従事するための能力（Bコース）

【博士後期課程】

本課程では，英米文学・英語学・文化研究の専門研究者として学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。学位論文を提出し，その審査に合格すれば，これらを身につけたものと認め，学位を授与します。

1. 人文学としての文学研究という視点から，専門的知識と共に広い分野における知識
2. 指導教授（メンター）による研究指導を受け，英米の文学・思想・文化，英語学・英語教育についての専門研究にたずさわることができる力
3. 独自の研究テーマを探求する技能
4. 大学，その他の研究機関における教育研究職に従事するための英語力と技能
5. 適切な構成，緻密な分析，明快な論理展開，豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力

ドイツ文学専攻

【博士前期課程】

本課程では，学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。ドイツ語圏文学・文化に関する専門的な知見と研究に必要な能力を修得の上，研究成果として学位論文を提出し，その審査に合格すれば，これらを身につけたものと認め，学位を授与します。

1. 専門的な研究を行うのに十分なドイツ語運用能力を修得し，原典や参考文献などのテキストを的確に理解し，ドイツ語で論理的な文章を書き，学問的な議論を行うことができる力
2. ドイツ語圏のさまざまな地域や時代の文化現象に対する知識と理解を深め，それを多様な視点から考察し，研究するに値するテーマを自分で設定することができる力
3. 適切な構成，緻密な分析，明快な論理展開，豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力
4. ドイツ語圏の文化や社会に対する強い関心と深い知見に基づき，自国の文化や社会を世界との関連において俯瞰する視座を獲得し，他国との相互理解，文化交流に貢献できる力
5. 自国とは異なる文化や思想をその歴史的背景とともに理解することによって，世界の多様さと豊かさを認識し，他者に対する想像力と開かれた精神をもって，現代世界のさまざまな問題と向き合うことができる力

【博士後期課程】

本課程では，学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。ドイツ語圏文学・文化に関する高度の研究能力を修得し，その分野における研究者として活躍できるようになることを目指して学位論文を提出し，その審査に合格すれば，これらを身につけたものと認め，学位を授与します。

1. 専門的な研究に必要な高度のドイツ語運用能力を修得し，原典や参考文献などのテキストを的確に理解し，ドイツ語で論理的な文章を書き，学問的な議論を行うことができる力
2. ドイツ語圏文学・文化をヨーロッパの歴史的な脈のなかで理解し，専門領域への洞察を深めると同時に，広い視野と複眼的な視点によって研究対象，研究方法を見定めることができる力
3. 自分の研究が，研究史においてどのように位置づけられるかを把握し，新たな知見をもたらすテーマを自分で設定することができる力
4. 適切な構成，緻密な分析，明快な論理展開，豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力
5. ドイツ語圏の文化や社会に対する強い関心と専門的な知識に基づき，自国の文化や社会を世界との関連において俯瞰する視野を獲得し，諸外国との文化交流に貢献できる力

フランス文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。複眼的視点と問題意識をもって専門的な知識と深い教養を獲得した上で、研究の成果として優れた学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関する高水準の専門的研究をすることができる能力
2. 専門的な研究を遂行しうる高度なフランス語運用能力
3. フランスおよびフランス語圏の文化・芸術に関する深い教養
4. 専門的な知識に基づいた的確な分析と論理的かつ説得的な構成・展開を備えた学術論文を書くことができる能力
5. さまざまな分野で職業人として活躍しうる能力・適性

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。各人の専門において先端的な知識と高度な幅広い教養を獲得した上で、研究の成果として優れた学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、国際的な水準で通用しうる高度な専門的研究をすることができる能力
2. 国際的な学術的交流を可能にする高度なフランス語運用能力
3. フランスおよびフランス語圏の文化・芸術についての極めて深い見識
4. 専門的な知識、先行研究の精査に基づく的確な分析と論理的かつ説得的な構成・展開を備えた学術論文を書くことができる能力
5. 専門的な知識やフランス語運用能力を教育の現場に生かすことのできる能力・適性

新聞学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。幅広くマス・コミュニケーションとジャーナリズムを学習して所定の単位を修得し、学位論文を提出しその審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. カリキュラム・ポリシーが示す3分野の基礎知識を修得し、及びそれらを現前するメディアやジャーナリズムに関する諸問題の解決に応用できるだけの力
2. 幅広い関心領域を有し、情報化社会において今後新たに次々と生起する諸問題にその都度関心を払い、それらに対して独自の洗練された問題意識を持って臨むことができる力
3. 問題意識と方法論をもって、修士論文を完成させ、一定程度以上の評価を得ることができる力
4. 学外の情報にも広くアンテナを張って、情報収集を行い、自己の研究に有益な情報を修得すべく自ら努力できる力
5. 一定の様式を備えたレポートや口頭発表によって、自己の研究成果や思想を効果的に伝達する力

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位取得および学位論文を提出しその審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 研究領域における学問的方法論および高度な専門知識を有し、ジャーナリズム論、メディア論、情報社会論などを中心に自己のテーマ領域を確立する力
2. 自己のテーマ領域に関して、過去の諸研究を広くレビューしており、他者に対して適宜要点を伝える能力を有する力

3. 国際的な視野に立った討論や分析を行う能力を持ち、国内外の学会等で最先端の研究成果を発表できる力
4. 独自の研究テーマを持ち、今後、研究者として自立して研究を遂行していくための計画を立てる力
5. 自己の研究テーマの研鑽を通じて培った高度な専門知識や倫理感を以て、国際社会に広く貢献できる力

文化交渉学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 修士論文の作成にあたって、先行研究を十分にふまえ、既存の学問領域の枠にとらわれずに、適切なテーマを設定する力
2. テーマ設定に基づき、その解決のために必要な資料を読解し分析する能力
3. 緻密な分析、論旨の整備等がそなわった明快な論文を作成する力

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士論文において、先行研究を十分にふまえ、緻密な分析にもとづき、独自に新しい学説を打ち出す力
2. 博士論文の核になる論文を、学会における発表や、雑誌論文への投稿によって、積極的に世に問う力
3. 修了後も、研究者としての自覚をもって、必要に応じて海外で活動するなど、研究を深化させる力

3. 各専攻のカリキュラム・ポリシー

哲学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、哲学専修コースおよび現代思想コースの2つのコースを設置し、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 哲学専修コースでは、古代から中世を経て近・現代へ至る西洋哲学の歴史をふまえて、科学、芸術、文化、宗教のあり方を根本から考えるとともに、哲学の文献研究の基礎を学ばせる。
2. 古代から近代まで哲学の古典的著作を原典（英・独・仏・ラテン・ギリシア）で精読する文献研究を開設する。
3. 現代思想コースでは、現代的な視座から哲学の根本問題を考察し、環境、生命、医療など現代社会が直面する多様な倫理的問題をとりあげる。文献研究以外に現代倫理学、美学・芸術学、東洋思想、日本思想、宗教思想などの科目を開設する。
4. 両コースに共通の必修科目「哲学総合演習 A, B」によって、各自が自分の研究を発表し、討論する機会を設ける。関心の枠を拡げ、質疑応答や意見交換によって哲学的思索を深め、共同研究のやり方を幅広く学ぶ。また授業の一部を英語で行うなど、国際的な研究水準を意識させる。
5. 入学後に各自の希望によって指導教員を決定し、個別の研究指導を通じて自分の勉学を深め、最終的には修士論文へと結実させる。
6. 後期課程進学を希望する者は、大学院生の編集する『上智哲学誌』への投稿、上智哲学会での研究発表や『哲学論集』への投稿、などを通じて、学会発表を経験させる。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、専門的哲学研究者（大学・短大・高専の教員）の養成を主眼とし、また国際的な舞台上で活躍できる人材を育成するようカリキュラムを編成しています。

1. 哲学の歴史研究においては文献講読を中心とし、古代から現代までを扱う「哲学特殊研究」を複数開設する。
2. 文献研究以外に、現代倫理学、美学・芸術学、東洋思想、日本思想、宗教思想などを開設する。

3. 各自が自分の研究を発表し討論する必修科目「哲学特殊研究 A, B」を開設する。
4. 後期課程進学後に各自の希望によって指導教員を決定し、個別の研究指導を通じて自分の勉学を深め、口頭発表や論文投稿など学会活動を通じて研究成果を発表しつつ、最終的には博士論文へと結実させる。
5. 大学院生の編集する『上智哲学誌』への投稿、上智哲学会での研究発表、『哲学論集』への投稿などを通じて、学会発表を経験させる。
6. 本学の恵まれた条件を活かして海外留学を推奨する。また授業の一部を英語で行うなど、国際的な研究水準を意識させる。

史学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、歴史学の幅広くかつ深い知識を極め、鋭い分析・批判能力を培うよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 地域的（日本史・東洋史・西洋史）、時代的（古代史・中世史・近世史・近現代史）に細分化された領域に配置された教員が、テーマに最も近い学生を「研究指導」する。
2. 学生が、上記の特定領域の史料読解力を磨き、研究史を学ぶ「演習」を開設する。
3. 地域・時代を超えた学生が集まり、歴史学の比較研究や幅広い論を行い、自分の専門領域をより客観的に見る姿勢を養う「特研」を開設する。
4. 学生が、修士論文完成まで数度経過報告を行い、論文のまとめ方を修得する「修士論文演習」を開設する。
5. 学生の専門領域を深めるために、指導教員の承認を得たうえで、他専攻の科目や、他研究科の科目、ならびに協定を結んだ他大学大学院の科目を、一定の条件の下で履修させることがある。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 自分のテーマに最も近い教員を指導教員として学生が選ぶ「研究指導」を開設する。
2. 自分のテーマでの史料講読や研究史を教員の指導下で学びつつ、論文執筆の途中経過を報告して論文作成を進める「博士論文演習」を開設する。
3. 本専攻課程の授業以外に、学生は、指導教員の承認を得たうえで、海外留学や学会・研究会報告を行い、研究者としての研鑽を積む。

国文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、古典学を研究・教育の根幹に置いた「国文学」を総合的に追究するために、本課程において開設する特殊講義・演習の科目、及び世界から見た日本文学の科目を学生が履修するよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 古典学を研究・教育の根幹に置いた国語学を追究するために、国語学特殊講義・演習の科目を開設する。
2. 古典学を研究・教育の根幹に置いた古典文学を追究するために、古典文学特殊講義・演習の科目を開設する。
3. 古典学を研究・教育の根幹に置いた近代文学を追究するために、近代文学特殊講義・演習の科目を開設する。
4. 古典学を研究・教育の根幹に置いた漢文学を追究するために、漢文学特殊講義・演習の科目を開設する。
5. 「国文学」の総合的な知見に基づいた修士論文を執筆するために、研究指導をする。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、古典学を研究・教育の根幹に置いた「国文学」を総合的に追究するために、本課程において開設する特殊研究の科目、及び世界から見た日本文学の科目を履修するよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 古典学を研究・教育の根幹に置いた国語学を追究するために、国語学特殊研究の科目を開設する。

2. 古典学を研究・教育の根幹に置いた古典文学を追究するために、古典文学特殊研究の科目を開設する。
3. 古典学を研究・教育の根幹に置いた近代文学を追究するために、近代文学特殊研究の科目を開設する。
4. 古典学を研究・教育の根幹に置いた漢文学を追究するために、漢文学特殊研究の科目を開設する。
5. 「国文学」の総合的な知見に基づいた学位論文を執筆するために、研究指導をする。

英米文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、高度な英語能力と英米文学・思想・文化、英語学・英語教育についての知識が獲得できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 特別講義・演習をバランス良く受講し、体系的かつ専門的な知識を身につけるように指導する。1年次はアドヴァイザーによる研究指導を受け、2年次は専門分野の指導教員（メンター）のもとで研究を進める。
2. 修士1年で「文学研究法 I」（日本語）と「文学研究法 II」（英語）を必修として開設し、リサーチ、研究発表、論文執筆を英語と日本語で行えるようになることを目指して基礎力を養う。
3. 大学教員、中高教員、あるいは英語英文学における知識や技能を生かした進路に進むための訓練をする。
4. Aコース（後期課程進学コース）の学生は、2年次にメンターによる研究指導を受けながら修士論文（英語）を作成し、後期課程に進み専門研究者となることを目指す。
5. Bコース（前期課程完結コース）の学生は、2年次にメンターによる研究指導を受けながら修士論文（英語・日本語）あるいはリサーチ・ペーパーを作成し、研究の基礎を学ぶ。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、専門研究者となるための研究方法を修得し、専門テーマに関する研究を行うことができるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. リーディング・コースを毎年履修し、専門的知識を獲得すると共に、幅広い視野を身につけるように指導する。
2. リサーチを進め、学内外で研究発表を行い、研究論文を公表するように指導する。
3. 博士予備論文作成を指導する。
4. 英語運用能力の向上を図り、英語圏の大学や研究機関に長期あるいは短期留学できるよう指導する。
5. 博士論文のテーマを定め、博士予備論文を執筆し、博士号取得に向けた研究を進めるように指導する。

ドイツ文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、ドイツ語圏の文学・文化をヨーロッパの歴史的な脈のなかで理解し、自分で研究テーマを見つけ、その成果を学術論文にまとめることができるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. すべての授業において、専門的な研究を行うのに必要なドイツ語運用能力を身につけることを目指し、ドイツ語で行う授業を複数用意する。
2. ドイツ語圏の文学・文化をヨーロッパの歴史的な脈のなかで理解し、その多様性と豊かさに触れるために、さまざまな時代や地域に関する授業を開設する。
3. 各授業や文学研究の方法論に関する授業を通して、問題意識を深め、自分でテーマを設定できる力を養う。またレポート作成を通して、分析能力、論理的思考力、言語表現力を身につけさせる。
4. 授業での討論、修士論文中間発表会などを通して、自分の見解を論理的に説得力をもって伝える力を培うと同時に、他者の見解を理解し、そこから新たな視点を獲得する能力を養成する。
5. 教員の個別指導の下、研究テーマを決定し、日本語（要ドイツ語レジュメ）ないしはドイツ語で修士論文を書くことを課す。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、ドイツ語圏の文学・文化についての専門的な理解と考察を深め、専門領域において新たな知見をもたらす博士論文を提出できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. すべての授業において、専門的な研究を行うのに必要な高度なドイツ語運用能力を向上させることを目指しドイツ語で行う授業を複数用意する。
2. ドイツ語圏文学・文化をヨーロッパの歴史的文脈のなかで理解し、多角的な視点と問題意識をもてるよう、さまざまな時代や地域に関する授業を開設する。
3. 各授業や文学研究の方法論に関する授業を通して問題意識を深め、自分でテーマを設定できる力を養う。またレポート作成を通して、分析能力、論理的思考力、言語表現力を身につけさせる。
4. 授業での討論、論文発表会などを通して、自分の見解を論理的に説得力をもって伝える力を培うと同時に、学問的な議論を行う能力を養成する。
5. 指導教員の個別指導の下、まずは院生の雑誌に学術論文を執筆し、論文の書き方を具体的に徹底して身につけ、それをさらに発展させて、博士論文を執筆する。

フランス文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、フランスおよびフランス語圏の文学・芸術の研究に関して、方法論を深化させ、多様な興味・関心を抱くことのできるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、研究方法の修得・深化に役立つ専門的教育を行う。
2. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、多様な興味・関心を喚起しうる専門的教育を行う。
3. 高度なフランス語運用能力を養成するための実践的な語学的訓練を行う。
4. 修士論文作成のために、テーマの掘り下げ、プランの策定、論述の整備など、きめ細かい指導をする。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、フランスおよびフランス語圏の文学・芸術の研究に関して、国際的なレベルでのテーマと方法論の基準と選択について意識を高めるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関する「特殊研究」を複数開設する。
2. 博士論文作成のために、テーマの掘り下げ、プランの策定、論述の整備など、きめ細かい指導を行う。
3. 給費留学や研究集会での発表など、研究者としての国際的な活動に道を開くための手助けをする。

新聞学専攻

【博士前期課程】

本課程では、効率的な学習によって、ディプロマ・ポリシーに示す目標を達成できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. マス・コミュニケーション理論、ジャーナリズム論、メディア分析の3分野を基本に据えたカリキュラムを構成し、その上で演習を配置し院生が主体的に学問に取り組める体制とする。
2. メディア・ジャーナリズムをとりまく今日の諸問題を扱う科目をその都度設置して、院生の関心に応じて時代の潮流に沿った柔軟な研究が可能となる体制とする。
3. 修士論文を完成させるため、指導教員の指導のもと、各自の研究を推進させる体制を整えている。中間発表会を設置することで、修士論文の進捗状況をすべての教員が把握できる仕組みとする。
4. 大学院の社会学分野単位相互互換制度により、他大学大学院の開設科目の履修を認める。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、研究者として自己のテーマ領域を打ち立てるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 在学期間内に博士論文を完成することを目指し、指導教員のもと入学後3か年以内に12単位の演習および在学中研究指導を受けさせる。
2. 学位申請論文については、入学後1年を経て論文提出資格を得る試験に合格した者に対して執筆を許可する。
3. 論文執筆前に、自己の研究テーマに関して、日本マス・コミュニケーション学会他、国内外の関連学会において積極的に発表を行うことを推奨し、指導をする。
4. 論文執筆の途中段階において随時、指導教員および当該テーマを専門とする教員による助言と評価を仰ぐことができる体制とする。
5. 論文審査は学外の審査委員（副査）を含む審査委員会によって行われ、公開試験後の審査委員会において合格判定を得られた場合に、学位を授与する。

文化交渉学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、多元文化相互の接触や交渉に、幅広い観点から目を向けるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 異文化をどのように捉えるのかをテーマに、さまざまな文化の特質、文化形成の歴史的経緯などを研究する。
2. 文化交渉の手段の一つであり、新しい文化創造の契機にもなる翻訳について、文学と芸術の関わりを含めて研究する。
3. 諸文化が会うときに生じる軋轢や、受けとめる様相などを見つめ、新しい文化創造に向かう過程に着目して研究する。
4. 研究、論文作成の基本に習熟するために、「論文作成法」を履修し、修士論文作成にそなえさせる。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、本専攻の特色を生かした博士論文作成に向けて、資料の読解、テーマの深化、論文作成の要諦などを教授するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、さらに高度な研究をさせる。
2. 開講科目の履修と個別指導を通じ、研究者としての自覚をもたせ、文化創造の基盤となる資料の取り扱いに、さらにみがきをかける。

哲学専攻 博士前期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

【哲学専修コース（Aコース）】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	30		
授業科目			
▶必修科目	4		
└哲学総合演習A	2		
└哲学総合演習B	2		
▶選択必修科目	10		文献研究科目群のなかから10単位を選ぶ
▶選択科目	16		
└自専攻科目			
└自研究科他専攻科目			19年次生以降は4単位まで修了に必要な単位として認められる。
└委託聴講科目			8単位まで修了に必要な単位として認められる
研究指導（必修）		4	単位なし, 在学中毎学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および口述試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること)

【現代思想コース（Bコース）】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	30		
授業科目			
▶必修科目	4		
└哲学総合演習A	2		
└哲学総合演習B	2		
▶選択必修科目	10		文献研究科目群のなかから4単位 研究科目群のなかから6単位を選ぶ
▶選択科目	16		
└自専攻科目			
└自研究科他専攻科目			19年次生以降は4単位まで修了に必要な単位として認められる。
└委託聴講科目			8単位まで修了に必要な単位として認められる
研究指導（必修）		4	単位なし, 在学中毎学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および口述試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること)

【研究指導スケジュール】

指導教員の決定：4月末まで（M1・M2）新入生ガイダンス後なるべく早期が望ましい。

年次研究計画書の提出：4月末まで（M1・M2）毎年度提出

研究報告書の提出：2月末まで（M1）

修士論文計画書の提出：11月中旬（M1）指導教員別にガイダンスを実施する。

修士論文中間発表会：10月下旬～12月上旬（M2）「哲学総合演習」で順次発表する。

修士論文の履修登録：9月下旬～10月上旬（M2）秋学期履修登録期間中

修士論文の提出：1月中旬（M2）

論文審査・口述試験：2月中旬（M2）

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 問題設定：哲学の体系的・歴史的研究のいずれかの点で、妥当な問題を設定していること。
- 2) 研究方法：文献研究の場合、原典の参照や二次文献の検討が適切になされていること。
- 3) 論文構成：論文全体の構成、論旨の展開が明確で、説得力がある文章で書かれていること。
- 4) 研究の位置づけ：研究史に鑑み、自分の研究がどういった位置にあるか明確であること。
- 5) 独創性：哲学研究への何らかの積極的な貢献を果たす意義を持っていること。
- 6) 論文の形式：論文としての十分な紙幅、註や参考文献の適切な指示がなされていること。
- 7) 研究の倫理：資料の改竄、剽窃、盗作などが一切ないこと。
- 8) 指導：指導教員との十分な個人指導を経た成果であること。

2. 授業科目の編成・単位

哲学専修コース（Aコース）・現代思想コース（Bコース）

科目名	単位数				
	必修	Aコース		Bコース	
		選必	選択	選必	選択
<文献研究科目群>					
古代哲学文献研究Ⅰ		2		2	
古代哲学文献研究Ⅱ		2		2	
中世哲学文献研究Ⅰ		2		2	
中世哲学文献研究Ⅱ		2		2	
中世哲学文献研究Ⅲ		2		2	
近代哲学文献研究Ⅰ		2		2	
近代哲学文献研究Ⅱ		2		2	
近代哲学文献研究Ⅲ		2		2	
近代哲学文献研究Ⅳ		2		2	
近代哲学文献研究Ⅴ		2		2	

科目名	単位数				
	必修	Aコース		Bコース	
		選必	選択	選必	選択
<研究科目群>					
現代哲学研究Ⅰ			2	2	
現代哲学研究Ⅱ			2	2	
現代倫理学研究Ⅰ			2	2	
現代倫理学研究Ⅱ			2	2	
美学芸術学研究Ⅰ			2	2	
美学芸術学研究Ⅱ			2	2	
日本思想研究			2	2	
東洋思想研究			2	2	
宗教思想研究			2		2
哲学総合演習A	2				
哲学総合演習B	2				

哲学専修コース（Aコース）の選択必修は

<文献研究科目群>より10単位

現代思想コース（Bコース）の選択必修は

<文献研究科目群>より4単位

<研究科目群>より6単位

それ以上の単位は選択科目として扱う

3. 履修上の注意

- 1) 前期課程において必要な履修単位は 30 単位とする。
- 2) 「研究指導(必修)」を、毎学期受けること。なお、2017 年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件を参照すること。
- 3) 前期課程の学生は入学後一年以内に、修士論文のテーマと希望する指導教員名を専攻主任に申告しなければならない。専攻会議はそれを考慮して指導教員を指定する。
- 4) 前期課程において学生の研究上必要と認められるときは、協定他大学および本学の他の研究科・専攻の開講科目を履修させ、これを委員会が計 8 単位まで必要単位として認定する。
- 5) 哲学総合演習 AB (合計 4 単位) は前期課程 1 年次生用の必修である。それ以外に 2 年次以降、継続して履修を希望する場合は、選択科目として扱う。
- 6) 毎年度初めの在校生・新入生ガイダンスの席で、指導教員の選定、研究計画、修士論文作成などについて詳細な説明を行う。
- 7) 「分野横断研究法：原理と技法」(総合人間科学研究科心理学専攻開講 2022 年度秋学期 金曜日 5 時限 2 単位科目) について

分野横断型の科目として、2022 年度から新たに開設される。本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能。定員 30 名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2022 年度履修要覧〔ガイド・資料編〕p. 31 を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MPPH1331	春	哲学総合演習 A	PHL517-21m00	2	荻野 弘之	○	
MPPH7010	春	古代哲学文献研究 I	PHL505-21j00	2	荻野 弘之		(旧) 古代哲学文献研究 I A
MPPH7210	休講	中世哲学文献研究 I	PHL507-21j00	2			(旧) 中世哲学文献研究 I A
MPPH7230	春	中世哲学文献研究Ⅲ	PHL509-21j00	2	長町 裕司		
MPPH7310	休講	近代哲学文献研究 I	PHL510-21j00	2			(旧) 近代哲学文献研究 I A
MPPH7330	春	近代哲学文献研究Ⅲ	PHL512-21j00	2	杉尾 一		(旧) 近代哲学文献研究Ⅱ A
MPPH7410	春	現代哲学研究 I	PHL515-21j00	2	長町 裕司		(旧) 現代哲学研究 I A
MPPH1332	秋	哲学総合演習 B	PHL518-21m00	2	杉尾 一	○	
MPPH7020	秋	古代哲学文献研究Ⅱ	PHL506-21j00	2	荻野 弘之		
MPPH7220	秋	中世哲学文献研究Ⅱ	PHL508-21j00	2	佐藤 直子		(旧) 中世哲学文献研究 I B
MPPH7320	休講	近代哲学文献研究Ⅱ	PHL511-21j00	2			(旧) 近代哲学文献研究 I B
MPPH7340	秋	近代哲学文献研究Ⅳ	PHL513-21j00	2	長町 裕司		(旧) 近代哲学文献研究Ⅲ
MPPH7420	秋	現代哲学研究Ⅱ	PHL516-21j00	2	長町 裕司		(旧) 現代哲学研究 I B
MPPH7530	休講	美学芸術学研究 I	PHL520-21j00	2			隔年開講
MPPH7570	休講	宗教思想研究	PHL502-21j00	2			隔年開講
MPPH9340	秋	修士論文	PHL699-21j00	0	哲学専攻各指導教員		
MPPH7350	秋	近代哲学文献研究Ⅴ	PHL514-21j00	2	川口 茂雄		(旧) 近代哲学文献研究Ⅳ B
MPPH7510	春	現代倫理学研究 I	PHL503-21j00	2	寺田 俊郎		(旧) 現代倫理学研究Ⅱ A
MPPH7520	秋	現代倫理学研究Ⅱ	PHL504-21j00	2	寺田 俊郎		(旧) 現代倫理学研究Ⅱ B
MPPH7540	春	美学芸術学研究Ⅱ	PHL521-21j00	2	桑原 俊介		隔年開講
MPPH7550	休講	日本思想研究	PHL519-21j00	2			隔年開講
MPPH7560	春	東洋思想研究	PHL501-21j00	2	(他)角田 佑一		隔年開講

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
PHL599-21j00	荻野 弘之	
	長町 裕司	
	佐藤 直子	
	寺田 俊郎	
	鈴木 伸国	
	桑原 俊介	
	杉尾 一	

哲学専攻 博士後期課程

1. 修了に要する科目，単位数，科目数などの要件

【17年次生以降】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限，その他）
総単位数	20		
授業科目			
▶必修科目	4		
└哲学特殊研究A	2		
└哲学特殊研究B	2		
▶選択科目	16		
研究指導（必修）		6	単位なし，在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上，博士論文の審査および試験に 合格すること

【16年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限，その他）
総単位数	20		
授業科目			
▶必修科目	4		
└哲学特殊研究A	2		
└哲学特殊研究B	2		
▶選択科目	16		
研究指導（必修）			単位なし，在学中毎学期登録される
博士論文			必要な研究指導を受けた上，博士論文の審査および試験に 合格すること

【研究指導スケジュール】

指導教員の決定：4月末まで（D1）新入生ガイダンス後なるべく早期が望ましい。

年次研究計画書の提出：4月末まで（D1-3）毎年度提出

研究報告書の提出：2月末まで（D1-2）

博士論文中間発表会：10月下旬～12月上旬（D1-3）「哲学特殊研究」で順次発表する。

博士論文計画書の提出：指導教員，専攻主任と相談する。専攻会議での承認が必要。

博士論文の提出：（随時）提出要領は『履修要綱』参照

博士論文審査・口述試験：（随時）

【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために，提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 問題設定：哲学の体系的・歴史的研究のいずれかの点で，妥当な問題を設定していること。
- 2) 研究方法：文献研究の場合，原典の参照や二次文献の検討が適切になされていること。
- 3) 論文構成：論文全体の構成，論旨の展開が明確で，説得力がある文章で書かれていること。
- 4) 研究の位置づけ：研究史に鑑み，自分の研究がどういった位置にあるか明確であること。
- 5) 独創性：従来の研究にない独自の貢献を付け加える意義を持っていること。
- 6) 論文の形式：論文としての十分な紙幅，註や参考文献の適切な指示がなされていること。
- 7) 研究の倫理：資料の改竄，剽窃，盗作などが一切ないこと。
- 8) 指導：指導教員との十分な個人指導を経た成果であること。
- 9) 学会発表：論文を書くにあたって，それを構成する部分が，複数の専門学会での口頭発表，投稿論文などによる研究成果をふまえていること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
哲学特殊研究・古代Ⅰ			2
哲学特殊研究・古代Ⅱ			2
哲学特殊研究・中世Ⅰ			2
哲学特殊研究・中世Ⅱ			2
哲学特殊研究・中世Ⅲ			2
哲学特殊研究・近代Ⅰ			2
哲学特殊研究・近代Ⅱ			2
哲学特殊研究・近代Ⅲ			2
哲学特殊研究・近代Ⅳ			2
哲学特殊研究・近代Ⅴ			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
哲学特殊研究・現代Ⅰ			2
哲学特殊研究・現代Ⅱ			2
哲学特殊研究・現代倫理学Ⅰ			2
哲学特殊研究・現代倫理学Ⅱ			2
哲学特殊研究・美学芸術学Ⅰ			2
哲学特殊研究・美学芸術学Ⅱ			2
哲学特殊研究・日本思想			2
哲学特殊研究・東洋思想			2
哲学特殊研究A	2		
哲学特殊研究B	2		

3. 履修上の注意

- 1) 後期課程において必要な履修単位数は20単位とする。
- 2) 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件を参照すること。
- 3) 後期課程の学生は入学当初に、研究テーマと希望する指導教員名を専攻主任に申告しなければならない。専攻会議はそれを考慮して指導教員を指定する。
- 4) 後期課程の学生は毎週指導教員の授業に出席し、その指示に従って研究し、研究状況を指導教員に報告し、その成果を毎年発表しなくてはならない。
- 5) 後期課程から入学した学生で、前期課程必修科目の「哲学総合演習」を未履修者は、指導教員と専攻主任の許可を受けた上で、この科目4単位を後期課程の選択科目として履修し、必要単位数に充当することができる。
- 6) 後期課程において学生は研究の必要上、協定他大学および本学の他の研究科・専攻の授業を履修することはできるが、それによって必要単位数に充当することはできない。
- 7) 哲学特殊研究A・B（合計4単位）は後期課程1年次生用の必修である。それ以外に2年次以降、継続して履修を希望する場合は、この両科目とも選択科目として扱う。
- 8) 毎年度初めの在校生・新入生ガイダンスの席で、指導教員の選定、研究計画、修士・博士論文作成などについて詳細な説明を行う。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他)：他専攻教員 *：非常勤教員	外国語	備考
DPPH3021	春	哲学特殊研究 A	PHL819-21m00	2	寺田 俊郎	○	
DPPH3111	春	哲学特殊研究・古代 I	PHL801-21j00	2	荻野 弘之		(旧) 古代哲学文献研究 I A
DPPH3221	休講	哲学特殊研究・中世 I	PHL803-21j00	2			(旧) 中世哲学文献研究 I A
DPPH3223	春	哲学特殊研究・中世 III	PHL805-21j00	2	長町 裕司		(旧) 中世哲学文献研究 III
DPPH3231	休講	哲学特殊研究・近代 I	PHL806-21j00	2			(旧) 近代哲学文献研究 I A
DPPH3233	春	哲学特殊研究・近代 III	PHL808-21j00	2	杉尾 一		(旧) 近代哲学文献研究 II A
DPPH3241	春	哲学特殊研究・現代 I	PHL811-21j00	2	長町 裕司		(旧) 現代哲学文献研究 II A
DPPH3022	秋	哲学特殊研究 B	PHL820-21m00	2	桑原 俊介	○	
DPPH3112	秋	哲学特殊研究・古代 II	PHL802-21j00	2	荻野 弘之		(旧) 古代哲学文献研究 II
DPPH3222	秋	哲学特殊研究・中世 II	PHL804-21j00	2	佐藤 直子		(旧) 中世哲学文献研究 I B
DPPH3232	休講	哲学特殊研究・近代 II	PHL807-21j00	2			(旧) 近代哲学文献研究 I B
DPPH3234	秋	哲学特殊研究・近代 IV	PHL809-21j00	2	長町 裕司		(旧) 近代哲学文献研究 III
DPPH3242	秋	哲学特殊研究・現代 II	PHL812-21j00	2	長町 裕司		(旧) 現代哲学文献研究 II B
DPPH3253	休講	哲学特殊研究・美学芸術学 I	PHL815-21j00	2			隔年開講 (旧) 美学芸術学研究 I
DPPH3235	秋	哲学特殊研究・近代 V	PHL810-21j00	2	川口 茂雄		(旧) 近代哲学文献研究 IV B
DPPH3251	春	哲学特殊研究・現代倫理学 I	PHL813-21j00	2	寺田 俊郎		(旧) 現代倫理学研究 II A
DPPH3252	秋	哲学特殊研究・現代倫理学 II	PHL814-21j00	2	寺田 俊郎		(旧) 現代倫理学研究 II B
DPPH3254	春	哲学特殊研究・美学芸術学 II	PHL816-21j00	2	桑原 俊介		隔年開講 (旧) 美学芸術学研究 II
DPPH3255	休講	哲学特殊研究・日本思想	PHL817-21j00	2			隔年開講 (旧) 日本思想研究
DPPH3256	春	哲学特殊研究・東洋思想	PHL818-21j00	2	(他)角田 佑一		隔年開講 (旧) 東洋思想研究

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
PHL899-21j00	荻野 弘之	
	長町 裕司	
	佐藤 直子	
	寺田 俊郎	
	鈴木 伸国	

史学専攻 博士前期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限, その他）
総単位数	30		
授業科目			
▶選択必修科目	4		4単位を超えて修得した場合, その超過分は選択科目の単位数に算入される
▶選択科目	26		
└自専攻科目			
└自研究科他専攻科目			
└委託聴講科目			10単位まで修了に必要な単位として認められる ※ただし, 国連大学委託聴講科目は認められない
研究指導（必修）		4	単位なし, 在学中毎学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること)

【研究指導スケジュール】

事項	期日	対象	備考
研究計画書の提出	4月末まで	M1以上	
修士論文演習の履修	春学期・秋学期	M1以上	履修登録期間中に各自登録, M1の春学期は卒論発表, 秋学期は修論構想発表, M2以降は修論中間報告を繰り返す
研究報告書の提出	2月末まで	M1以上	
修士論文提出予定書の提出	6月末まで	M2以上	修士論文提出予定者が対象
修士論文の履修登録	9月下旬～ 10月上旬	M2以上	修士論文を提出する学期の履修登録期間中に, 各自で履修登録を行うこと
修士論文の中間報告	11月下旬	M2以上	修士論文提出予定者が対象, 上智大学史学会大会, もしくは10月の月例会にて報告のこと
修士論文題目届の提出	11月末まで	M2以上	修士論文提出予定者が対象
修士論文の提出	1月中旬	M2以上	修士論文提出予定者が対象
修士論文の審査・口述試験	2月中旬	M2以上	修士論文提出者が対象。公開で実施し, 下記の基準に基づき審査する

※ 各提出物の様式や提出期限の詳細は, 毎年4月実施の専攻別院生ガイダンスにて説明する。

※ 9月修了希望者は, 修士論文提出から口述試験に至るスケジュールを別途指定するため, 履修登録前に必ず指導教員もしくは専攻主任に連絡を取ること。

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために, 提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 問題意識が明確で, テーマ設定が適切であり, 歴史研究の知識の向上に寄与していること。
- 2) 先行研究が十分に検討・吟味されており, 出典記載や引用が適切になされていること。
- 3) 史・資料に基づいた実証研究であること。
- 4) 論文構成が的確で, 論理展開に整合性と一貫性があること。
- 5) 論文の言語表現が的確であり, 目次・註・付録(図表・史料・参考文献表など)に関する体裁が整っていること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
<日本史学>			
古代演習 I			2
古代演習 II			2
古代特研			2
中世演習 I			2
中世演習 II			2
中世特研			2
近世演習 I			2
近世演習 II			2
近世特研			2
近・現代演習 I			2
近・現代演習 II			2
近・現代特研			2
史料学研究			4
<東洋史学>			
古代・中世演習 I			2
古代・中世演習 II			2
古代・中世特研			2
近世演習 I ※注1			2
近世演習 II ※注1			2
近・現代演習 I			2
近・現代演習 II			2
近・現代特研			2
<西洋史学>			
古代演習 I			2
古代演習 II			2
古代特研			2
中世演習 I			2
中世演習 II			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
中世特研			2
近世演習 I			2
近世演習 II			2
近世特研			2
近・現代演習 I			2
近・現代演習 II			2
近・現代特研			2
(他) 聖書神学研究ゼミナール I (古代イスラエル史) ※注2			2
(他) ヨーロッパ政治文化研究1 ※注3			2
(他) ヨーロッパ政治文化研究2 ※注3			2
(他) ヨーロッパ政治社会研究1 ※注3			2
(他) ヨーロッパ政治社会研究2 ※注3			2
(他) 西洋法制史研究 I (ヨーロッパ近 世・近代史) ※注4			2
(他) 西洋法制史研究 II (ヨーロッパ現 代史) ※注4			2
(他) 分野横断研究法：原理と技法 ※注5			2
<修士論文演習>			
修士論文演習 I a		2	
修士論文演習 I b		2	
修士論文演習 II a		2	
修士論文演習 II b		2	

※注1 2019年度まで開講

※注2 神学研究科神学専攻開講科目(詳細はp.14参照)

※注3 グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻開講科目(詳細はp.254参照)

※注4 法学研究科法律学専攻開講科目(詳細はp.172参照)

※注5 大学院分野横断型科目(心理学専攻開講科目)

3. 履修上の注意

- 「史学専攻履修上の注意」(4月専攻別院生ガイダンスで配付)に従って履修すること。
- 前期課程生は、専任教員1名を指導教員として定め、所定の科目を履修するとともに、指導教員と密接に連絡し、学位論文や研究報告の作成を行うこと。
- 「研究計画書」、「研究報告書」、「修士論文提出予定書」、「修士論文題目届」の提出については、【研究指導スケジュール】を参照すること。
- 前期課程生は、「修士論文演習」4単位を選択必修とする。この科目は、修士論文を作成・提出するまで、引き続き受講することが望ましい(4単位を超える単位は選択科目の単位数に算入される)。
- 「研究指導」を在学中に毎学期受け、4科目以上合格すること。
- 「(他)分野横断研究法：原理と技法」(総合人間科学研究科心理学専攻開講 2022年度秋学期 金曜日 5時限 2単位科目)について
分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設される。本科目により修得した単位は、自専攻科目として修了に必要な単位に算入される。
定員30名の抽選科目となるので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2022年度履修要覧〔ガイド・資料編〕p.31を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MHHT6240	春	修士論文演習 I a	HST501-23j00	2	中澤 克昭 中川 亜希 北條 勝貴 大川 裕子 山本 成生		
MHHT6260	春	修士論文演習 II a	HST502-23j00	2	笹川 裕史 川村 信三		
MHHT7060	春	<日本史学>近世特研	HST512-23m00	2	川村 信三		
MHHT7080	休講	<日本史学>近・現代特研	HST513-23m00	2			
MHHT7120	春	<東洋史学>古代・中世特研	HST540-23m00	2	大川 裕子		
MHHT7190	春	<西洋史学>中世特研	HST517-23m00	2	山本 成生		
MHHT7210	休講	<西洋史学>近世特研	HST518-23m00	2			
MHHT7240	休講	<日本史学>古代演習 I	HST520-23j00	2			
MHHT7260	春	<日本史学>中世演習 I	HST521-23j00	2	中澤 克昭		
MHHT7280	春	<日本史学>近世演習 I	HST522-23m00	2	川村 信三		
MHHT7300	休講	<日本史学>近・現代演習 I	HST523-23m00	2			
MHHT7320	春	<東洋史学>古代・中世演習 I	HST541-23m00	2	大川 裕子		
MHHT7360	春	<東洋史学>近・現代演習 I	HST525-23m00	2	笹川 裕史		
MHHT7380	春	<西洋史学>古代演習 I	HST526-23m00	2	中川 亜希		
MHHT7400	春	<西洋史学>中世演習 I	HST527-23m00	2	山本 成生		
MHHT7420	休講	<西洋史学>近世演習 I	HST528-23m00	2			
MHHT7440	春	<西洋史学>近・現代演習 I	HST529-23m00	2	井上 茂子		
MFAS7000	休講	(他) ヨーロッパ政治文化研究 1	AEU503-67j00	2			(他) グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻 ※注 2
MFAS7020	休講	(他) ヨーロッパ政治社会研究 1	AEU501-67j00	2			(他) グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻 ※注 2
MLLW7030	休講	(他) 西洋法制史研究 I (ヨーロッパ近世・近代史)	JUR503-41m00	2			(他) 法学研究科法律学専攻, 隔年開講 ※注 3
MHHT7090	集中	史料学研究	HST599-23j00	4	中澤 克昭		春学期 4 月に申込み, 夏休みに授業。履修登録と成績評価は秋学期。
MHHT6250	秋	修士論文演習 I b	HST601-23j00	2	山本 成生 中澤 克昭 中川 亜希 大川 裕子 北條 勝貴		
MHHT6270	秋	修士論文演習 II b	HST602-23j00	2	川村 信三 笹川 裕史		
MHHT7020	秋	<日本史学>古代特研	HST510-23j00	2	北條 勝貴		
MHHT7040	秋	<日本史学>中世特研	HST511-23j00	2	中澤 克昭		
MHHT7150	秋	<東洋史学>近・現代特研	HST515-23m00	2	笹川 裕史		
MHHT7170	秋	<西洋史学>古代特研	HST516-23m00	2	中川 亜希		
MHHT7230	休講	<西洋史学>近・現代特研	HST519-23m00	2			
MHHT7250	秋	<日本史学>古代演習 II	HST530-23j00	2	北條 勝貴		
MHHT7270	秋	<日本史学>中世演習 II	HST531-23j00	2	中澤 克昭		
MHHT7290	秋	<日本史学>近世演習 II	HST532-23m00	2	川村 信三		
MHHT7310	休講	<日本史学>近・現代演習 II	HST533-23m00	2			
MHHT7330	秋	<東洋史学>古代・中世演習 II	HST551-23m00	2	大川 裕子		
MHHT7370	秋	<東洋史学>近・現代演習 II	HST535-23m00	2	笹川 裕史		
MHHT7390	春	<西洋史学>古代演習 II	HST536-23m00	2	中川 亜希		
MHHT7410	秋	<西洋史学>中世演習 II	HST537-23m00	2	山本 成生		

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他)：他専攻教員 *：非常勤教員	外国語	備考
MHHT7430	休講	<西洋史学>近世演習Ⅱ	HST538-23m00	2			
MHHT7450	秋	<西洋史学>近・現代演習Ⅱ	HST539-23m00	2	井上 茂子		
MHHT9280	秋	修士論文	HST699-23m00	0	史学専攻各指導教員		M2 対象
MTTH7702	休講	(他) 聖書神学研究ゼミナールⅠ (古代イスラエル史)	THE552-91j00	2			(他) 神学研究科神学専攻, 隔年開講 ※注1
MFAS7010	休講	(他) ヨーロッパ政治文化研究2	AEU504-67j00	2			(他) グローバル・スタディーズ研究 科地域研究専攻 ※注2
MFAS7030	休講	(他) ヨーロッパ政治社会研究2	AEU502-67j00	2			(他) グローバル・スタディーズ研究 科地域研究専攻 ※注2
MLLW7040	春	(他) 西洋法制史研究Ⅱ (ヨーロッパ現代史)	JUR504-41m00	2	(他)松本 尚子		(他) 法学研究科法律学専攻, 隔年開 講 ※注3
MHPS7900	秋	分野横断研究法：原理と技法	PSY700-82j00	2	コデ 啓之 (他)松田 修 (総合人間科学研究科)		輪講 [30名] 博士前期課程または修士課程1年次生対象 (他) 総合人間科学研究科心理学専攻開講

※注1 神学研究科神学専攻開講科目 (詳細は p. 14 参照)

※注2 グローバルスタディーズ研究科地域研究専攻開講科目 (詳細は p. 254 参照)

※注3 法学研究科法律学専攻開講科目 (詳細は p. 172 参照)

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
HST599-23j00	中澤 克昭	
	井上 茂子	
	川村 信三	
	北條 勝貴	
	坂野 正則	休講
	中川 亜希	
	大川 裕子	
	笹川 裕史	
	山本 成生	

史学専攻 博士後期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

【17年次生以降】

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考 (上限, その他)
総単位数	12		
授業科目			
・必修科目	12		
└博士論文演習Ⅰ・Ⅱ	12		6学期(6回)で合計12単位分履修すること
研究指導(必修)		6	単位なし, 在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に合格すること

【16年次生】

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考 (上限, その他)
総単位数	12		
授業科目			
・必修科目	12		
└博士論文演習Ⅰ・Ⅱ	12		6学期(6回)で合計12単位分履修すること
研究指導(必修)			単位なし, 在学中毎学期登録される
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に合格すること

【研究指導スケジュール】

事項	期日	対象	備考
研究計画書の提出	4月末まで	D1以上	
博士論文演習の履修	春学期・秋学期	D1以上	履修登録期間中に各自登録, 博論中間報告を繰り返す。
博士論文提出資格の審査申請 (履歴書・業績目録・学位論文要旨もしくは研究計画書・論文抜刷各1部の提出)	3月修了者: 年度初めの4月1日～4月末日	D3以上	博士論文提出予定者が対象, 専攻主任に申し出ること。資格審査は, 史学専攻会議にて行う。9月修了者の場合は, 前年度の10月1日～10月末日までに申請のこと。
博士論文の提出	3月修了者: 修了を希望する年度の7月末まで	D3以上	博士論文提出予定者が対象。9月修了者の場合は, 修了を希望する年の1月末日まで。
博士論文の審査・口述試験	適宜定める	D3以上	博士論文提出者が対象。文学研究科委員会の定める論文審査委員会により公開で実施し, 下記の基準に基づき審査する。併せて, 専攻学術の口述試験と外国語の試験を行う。

※ 博士論文提出に至る過程については, 「博士の学位授与に関する史学専攻内規」に基づく。詳細は, 毎年4月実施の専攻別院生ガイダンスにて説明する。

※ 論文博士, 論文再入学については, 別途スケジュールを定めるので, 指導教員もしくは専攻主任に問い合わせること。

【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 問題意識が明確で、テーマ設定が適切であり、対象分野に関する新しい史実の発見、ないしは既知の史実に対する新しい解釈の提示をしていること。
- 2) 先行研究が網羅的に検討・吟味されており、出典記載や引用が適切になされていること。
- 3) 史・資料に基づいた実証研究であること。
- 4) 論文構成が的確で、論理展開に整合性と一貫性があること。
- 5) 論文の言語表現が的確であり、目次・注・付録（図表・史料・参考文献表など）に関する体裁が整っていること。
- 6) 当該分野における独創的かつ先端的な研究であり、執筆者が自立の研究者として研究を遂行する能力があることを証明する研究であること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
博士論文演習Ⅰ	2		
博士論文演習Ⅱ	2		

3. 履修上の注意

- 1) 「史学専攻履修上の注意」（4月専攻別院生ガイダンスで配付）に従って履修すること。
- 2) 後期課程生は、専任教員1名を指導教員として定め、所定の科目を履修するとともに、指導教員と密接に連絡し、学位論文や研究報告の作成を行うこと。
- 3) 「研究計画書」、「研究報告書」の提出については、【研究指導スケジュール】を参照すること。
- 4) 指導教員の開講する「博士論文演習Ⅰ」「同Ⅱ」を合計で12単位修得すること（ただし、大学の交換留学制度で指定された外国の大学にて勉学する場合は、その限りではない）。
- 5) 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数（6科目以上）も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
- 6) 後期課程生は、指導教員の開講する博士前期課程の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を履修することが望ましい。なお、これは後期課程の修了要件とはならない。
- 7) 博士論文の提出者は、審査願提出時に、2本以上の研究論文が学術誌に掲載もしくは掲載決定していること。博士論文の提出に関しては、「博士の学位授与に関する史学専攻内規」に従って、所定の手続きをとること。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
DHHT3041	休講	博士論文演習 I	HST801-23m00	2	長田 彰文		
DHHT3081	春	博士論文演習 I	HST801-23m00	2	川村 信三	○	英語による授業
DHHT3091	春	博士論文演習 I	HST801-23m00	2	中澤 克昭		
DHHT3101	春	博士論文演習 I	HST801-23m00	2	笹川 裕史		
DHHT3201	春	博士論文演習 I	HST801-23m00	2	北條 勝貴		
DHHT3231	休講	博士論文演習 I	HST801-23m00	2			
DHHT3291	休講	博士論文演習 I	HST801-23m00	2			
DHHT3042	休講	博士論文演習 II	HST802-23m00	2			
DHHT3082	秋	博士論文演習 II	HST802-23m00	2	川村 信三	○	英語による授業
DHHT3092	秋	博士論文演習 II	HST802-23m00	2			
DHHT3102	秋	博士論文演習 II	HST802-23m00	2	笹川 裕史		
DHHT3202	秋	博士論文演習 II	HST802-23m00	2	北條 勝貴		
DHHT3232	秋	博士論文演習 II	HST802-23m00	2	中澤 克昭		
DHHT3292	休講	博士論文演習 II	HST802-23m00	2			

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
HST899-23j00	井上 茂子	
	川村 信三	
	中澤 克昭	
	北條 勝貴	
	坂野 正則	休講
	笹川 裕史	

国文学専攻 博士前期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	30		
授業科目			
・選択科目	30		
└自専攻科目			
└自研究科他専攻科目			
└委託聴講科目			10単位まで修了に必要な単位として認められる ※ただし, 国連大学委託聴講科目は認められない
研究指導（必修）		4	単位なし, 在学中毎学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること)

【研究指導スケジュール】

4月に実施する専攻ガイダンスで配布の「国文学専攻履修上の注意」「国文学専攻院生の指導について」ほか, 配布書類にて確認すること。

国文学専攻の院生に対する指導体制の強化と、修士論文・博士論文の取組の質的向上を目指し、専攻教員の申し合せとして、次の方法を導入する。

指導教員の指導・助言体制の強化の一助として、弾力化・多角化を図るために指導教員の複数制を導入する。

1. 院生1人に対して、大学所定の指導教員に加え、専攻としてさらに副指導教員を置く。
2. 副指導教員は指導教員と協議しながら、必要な助言を行う。

【年間スケジュール】

事項	日程	対象	備考
研究計画書の提出	4月第3水曜日締切	国文学専攻院生全員	指導教員・副指導教員の承認を受けたのち、専攻主任に提出
研究計画発表会	5月第4水曜日	博士前期課程在学学生	発表会に出席し、発表するとともに、質疑応答に積極的に加わり、教員の指導を受けること
研究計画発表会	10月第4水曜日	博士前期課程新入生	なお、院生全員参加のこと
修士論文構想発表会	11月第4水曜日	修士論文提出予定者	「修士論文提出予定者へ」参照 院生全員参加のこと
修士論文の提出	1月中旬		
修士論文審査・口述試験	2月中旬		
修士論文成果発表会	2月第4水曜日	修士論文提出者	院生全員参加のこと
研究報告書の提出	2月1日から2月末日	国文学専攻院生全員	国文学科事務室に提出

本年度修士論文提出予定者へ

1. 「修士論文提出予定書」の提出 提出期間 6月1日～6月末日
所定の用紙に記入の上、指導教員・副指導教員に承認を得たのち、専攻主任に提出すること。
2. 「修士論文構想発表会」について
「修士論文構想発表会」で発表し、公開の形で指導教員・副指導教員の指導・助言を受ける。
3. 「修士論文題目届」の提出 提出期間 11月15日～11月末日
所定の用紙に記入の上、指導教員、副指導教員の署名・捺印を得たのち、国文学専攻主任に提出すること。

【修士論文審査基準】

提出された論文は、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の達成度を把握するために、以下の基準で審査する。

- 1) 明確な問題意識に基づき、統一されたテーマを有し、統一された形式で書き下ろされたもの。刊行された書物、抜刷の集合は認めない。
- 2) 先行研究を的確に踏まえた上で、出典記載・引用が適切になされていること。
- 3) 独創的知見を有する研究であること。
- 4) 論理展開に整合性を有し、言語表現が適切であること。
- 5) 全国レベルの学会で発表された研究論文、または発表しうる水準の論文の内容を含んでいること。
- 6) 四百字詰め原稿用紙 200 枚以上に相当する分量を有すること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
古典文学特殊講義・演習ⅠA			2
古典文学特殊講義・演習ⅠB			2
古典文学特殊講義・演習ⅡA			2
古典文学特殊講義・演習ⅡB			2
古典文学特殊講義・演習ⅢA			2
古典文学特殊講義・演習ⅢB			2
古典文学特殊講義・演習ⅣA			2
古典文学特殊講義・演習ⅣB			2
近代文学特殊講義・演習ⅠA			2
近代文学特殊講義・演習ⅠB			2
近代文学特殊講義・演習ⅡA			2
近代文学特殊講義・演習ⅡB			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
国語学特殊講義・演習ⅠA			2
国語学特殊講義・演習ⅠB			2
国語学特殊講義・演習ⅡA			2
国語学特殊講義・演習ⅡB			2
国語学特殊講義・演習ⅢA			2
国語学特殊講義・演習ⅢB			2
漢文学特殊講義・演習ⅠA			2
漢文学特殊講義・演習ⅠB			2
漢文学特殊講義・演習ⅡA			2
漢文学特殊講義・演習ⅡB			2
(他) COMPARATIVE LITERATURE 1			2
(他) COMPARATIVE LITERATURE 2			2
(他) 分野横断研究法：原理と技法			2

3. 履修上の注意

- 1) 国文学専攻に所属する学生は、「大学院国文学専攻履修上の注意」に従って履修すること。
- 2) 「大学院国文学専攻院生の指導について」に従って、各自専任教員一名を指導教員、一名を副指導教員として定め、その指導のもとに所定の科目を履修し、かつ論文を作成すること。
- 3) 毎年度4月に専攻の定める「研究計画書」を、2月に「研究報告書」を提出すること。
- 4) 博士後期課程科目「特殊研究」を履修登録して受講することができるが、修了要件の単位としては認定されない。
- 5) 修士論文提出予定者は専攻の定める「提出予定書」及び「題目届」を提出すること。
- 6) 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、「研究指導」については、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
- 7) 「(他) 分野横断研究法：原理と技法」(総合人間科学研究科心理学専攻開講 2022年度秋学期 金曜日 5時限 2単位科目)について

分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設される。本科目により修得した単位は、自専攻科目として修了に必要な単位に算入される。

定員30名の抽選科目となるので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2022年度履修要覧〔ガイド・資料編〕p.31を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MHJL7010	春	古典文学特殊講義・演習ⅠA	JLT501-24j00	2	瀬間 正之		
MHJL7030	春	古典文学特殊講義・演習ⅡA	JLT503-24j00	2	本廣 陽子		
MHJL7050	春	古典文学特殊講義・演習ⅢA	JLT505-24j00	2	山本 章博		
MHJL7070	休講	古典文学特殊講義・演習ⅣA	JLT507-24j00	2			
MHJL7090	春	近代文学特殊講義・演習ⅠA	JLT509-24j00	2	* 小林 幸夫		後期課程「近代文学特殊研究ⅠA」と合併
MHJL7110	春	近代文学特殊講義・演習ⅡA	JLT511-24j00	2	* 滝口 明祥		後期課程「近代文学特殊研究ⅡA」と合併
MHJL7130	春	国語学特殊講義・演習ⅠA	JAL501-24j00	2	豊島 正之		後期課程「国語学特殊研究ⅠA」と合併
MHJL7150	春	国語学特殊講義・演習ⅡA	JAL503-24j00	2	服部 隆		
MHJL7170	休講	国語学特殊講義・演習ⅢA	JAL505-24j00	2			
MHJL7190	春	漢文学特殊講義・演習ⅠA	CLT501-24j00	2	長尾 直茂		
MHJL7210	春	漢文学特殊講義・演習ⅡA	CLT503-24j00	2	福井 辰彦		
MZJS5180	春	COMPARATIVE LITERATURE1	JST608-65e00	2	(他)河野 至恩	○	(他) グローバル社会専攻
MHJL7020	秋	古典文学特殊講義・演習ⅠB	JLT502-24j00	2	瀬間 正之		
MHJL7040	秋	古典文学特殊講義・演習ⅡB	JLT504-24j00	2	本廣 陽子		
MHJL7060	秋	古典文学特殊講義・演習ⅢB	JLT506-24j00	2	山本 章博		
MHJL7080	休講	古典文学特殊講義・演習ⅣB	JLT508-24j00	2			
MHJL7100	秋	近代文学特殊講義・演習ⅠB	JLT510-24j00	2	* 小林 幸夫		後期課程「近代文学特殊研究ⅠB」と合併
MHJL7120	秋	近代文学特殊講義・演習ⅡB	JLT512-24j00	2	* 滝口 明祥		後期課程「近代文学特殊研究ⅡB」と合併
MHJL7140	秋	国語学特殊講義・演習ⅠB	JAL502-24j00	2	豊島 正之		後期課程「国語学特殊研究ⅠB」と合併
MHJL7160	秋	国語学特殊講義・演習ⅡB	JAL504-24j00	2	服部 隆		
MHJL7180	休講	国語学特殊講義・演習ⅢB	JAL506-24j00	2			
MHJL7200	秋	漢文学特殊講義・演習ⅠB	CLT502-24j00	2	長尾 直茂		
MHJL7220	秋	漢文学特殊講義・演習ⅡB	CLT504-24j00	2	福井 辰彦		
MHJL9240	秋	修士論文	HUM699-24j00	0	国文学専攻各指導教員		M2 対象
MZJS5190	休講	COMPARATIVE LITERATURE2	JST609-65e00	2	(他)河野 至恩	○	(他) グローバル社会専攻
MHPS7900	秋	分野横断研究法：原理と技法	PSY700-82j00	2	コーディネータ (他)松田 修 (総合人間科学研究科)		輪講 [30名] 博士前期課程または修士課程1年次生対象 (他) 総合人間科学研究科心理学専攻開講

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
HUM599-24j00	瀬間 正之	
	豊島 正之	
	長尾 直茂	
	服部 隆	
	福井 辰彦	
	本廣 陽子	
	山本 章博	

国文学専攻 博士後期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

【18年次生以降】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	12		
授業科目			
・選択科目	12		
研究指導（必修）		6	単位なし, 在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に 合格すること

【17年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数			
授業科目			
・選択科目			
研究指導（必修）		6	単位なし, 在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に 合格すること

【16年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数			
授業科目			
・選択科目			
研究指導（必修）			単位なし, 在学中毎学期登録される
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に 合格すること

【研究指導スケジュール】

4月に実施する専攻ガイダンスで配布の「国文学専攻履修上の注意」「国文学専攻院生の指導について」ほか, 配布書類にて確認すること。

国文学専攻の院生に対する指導体制の強化と、修士論文・博士論文の取組の質的向上を目指し、専攻教員の申し合せとして、次の方法を導入する。

指導教員の指導・助言体制の強化の一助として、弾力化・多角化を図るために指導教員の複数制を導入する。

1. 院生1人に対して、大学所定の指導教員に加え、専攻としてさらに副指導教員を置く。
2. 副指導教員は指導教員と協議しながら、必要な助言を行う。

【年間スケジュール】

事項	日程	対象	備考
研究計画書の提出	4月第3水曜日締切	国文学専攻院生全員	指導教員・副指導教員の承認を受けたのち、専攻主任に提出
研究計画発表会	4月第4水曜日	博士後期課程在学学生	発表会に出席し、発表するとともに、質疑応答に積極的に加わり、教員の指導を受けること
研究計画発表会	6月第4水曜日	博士後期課程新入生	なお、院生全員参加のこと
修士論文構想発表会	11月第4水曜日	修士論文提出予定者	院生全員参加のこと
修士論文成果発表会	2月第4水曜日	修士論文提出者	院生全員参加のこと
研究報告書の提出	2月1日から2月末日	国文学専攻院生全員	国文学科事務室に提出

・研究計画・研究構想を作成し、指導教員・副指導教員の指導を受け、研究計画発表会で発表するとともに、論文を学術誌に発表するように努める。

・本年度博士論文提出予定者

別途、「国文学専攻博士学位授与に関する内規」（2002年12月4日制定）により、指導教員・副指導教員の指導のもとに論文を作成する。

【博士論文審査基準】

提出された論文は、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の達成度を把握するために、以下の基準で審査する。

- 1) 明確な問題意識に基づき、統一されたテーマを有し、統一された形式で書き下ろされたもの。刊行された書物、抜刷の集合は認めない。
- 2) 先行研究を的確に踏まえた上で、出典記載・引用が適切になされていること。
- 3) 独創的知見を有する研究であること。
- 4) 論理展開に整合性を有し、言語表現が適切であること。
- 5) 全国レベルの学会で発表された研究論文を、2本以上含んでいること。
- 6) 四百字詰め原稿用紙300枚以上に相当する分量を有すること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
古典文学特殊研究ⅠA			2
古典文学特殊研究ⅠB			2
古典文学特殊研究ⅡA			2
古典文学特殊研究ⅡB			2
古典文学特殊研究ⅢA			2
古典文学特殊研究ⅢB			2
古典文学特殊研究ⅣA			2
古典文学特殊研究ⅣB			2
近代文学特殊研究ⅠA			2
近代文学特殊研究ⅠB			2
近代文学特殊研究ⅡA			2
近代文学特殊研究ⅡB			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
国語学特殊研究ⅠA			2
国語学特殊研究ⅠB			2
国語学特殊研究ⅡA			2
国語学特殊研究ⅡB			2
国語学特殊研究ⅢA			2
国語学特殊研究ⅢB			2
漢文学特殊研究ⅠA			2
漢文学特殊研究ⅠB			2
漢文学特殊研究ⅡA			2
漢文学特殊研究ⅡB			2

3. 履修上の注意

- 1) 国文学専攻に所属する学生は、「大学院国文学専攻履修上の注意」に従って年間4単位ずつを目安に履修すること。
- 2) 「大学院国文学専攻院生の指導について」に従って、各自専任教員一名を指導教員、一名を副指導教員として定め、その指導のもとに所定の科目を履修し、かつ論文を作成すること。
- 3) 毎年度4月に専攻の定める「研究計画書」を、2月に「研究報告書」を提出すること。
- 4) 指導教員及び副指導教員の科目を、毎年必ず受講することが望ましい。
- 5) 博士前期課程科目を履修登録して受講することができるが、修了要件の単位としては認定されない。
- 6) 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
- 7) 博士論文審査願提出以前に2本以上の研究論文を学術誌に発表すること。
- 8) 博士論文を作成し、提出したい者は、「国文学専攻博士学位授与に関する内規」に従って、所定の手続きをとること。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
DHJL7010	春	古典文学特殊研究ⅠA	JLT801-24j00	2	瀬間 正之		
DHJL7030	春	古典文学特殊研究ⅡA	JLT803-24j00	2	本廣 陽子		
DHJL7220	春	古典文学特殊研究ⅢA	JLT809-24j00	2	山本 章博		
DHJL7060	休講	古典文学特殊研究ⅣA	JLT805-24j00	2			
DHJL7240	春	近代文学特殊研究ⅠA	JLT811-24j00	2	* 小林 幸夫		前期課程「近代文学特殊講義・演習ⅠA」と合併
DHJL7090	春	近代文学特殊研究ⅡA	JLT807-24j00	2	* 滝口 明祥		前期課程「近代文学特殊講義・演習ⅡA」と合併
DHJL7210	春	国語学特殊研究ⅠA	JAL805-24j00	2	豊島 正之		前期課程「国語学特殊講義・演習ⅠA」と合併
DHJL7120	春	国語学特殊研究ⅡA	JAL801-24j00	2	服部 隆		
DHJL7140	休講	国語学特殊研究ⅢA	JAL803-24j00	2			
DHJL7260	春	漢文学特殊研究ⅠA	CLT803-24j00	2	長尾 直茂		
DHJL7170	春	漢文学特殊研究ⅡA	CLT801-24j00	2	福井 辰彦		
DHJL7020	秋	古典文学特殊研究ⅠB	JLT802-24j00	2	瀬間 正之		
DHJL7040	秋	古典文学特殊研究ⅡB	JLT804-24j00	2	本廣 陽子		
DHJL7230	秋	古典文学特殊研究ⅢB	JLT810-24j00	2	山本 章博		
DHJL7070	休講	古典文学特殊研究ⅣB	JLT806-24j00	2			
DHJL7250	秋	近代文学特殊研究ⅠB	JLT812-24j00	2	* 小林 幸夫		前期課程「近代文学特殊講義・演習ⅠB」と合併
DHJL7100	秋	近代文学特殊研究ⅡB	JLT808-24j00	2	* 滝口 明祥		前期課程「近代文学特殊講義・演習ⅡB」と合併
DHJL7200	秋	国語学特殊研究ⅠB	JAL806-24j00	2	豊島 正之		前期課程「国語学特殊講義・演習ⅠB」と合併
DHJL7130	秋	国語学特殊研究ⅡB	JAL802-24j00	2	服部 隆		
DHJL7150	休講	国語学特殊研究ⅢB	JAL804-24j00	2			
DHJL7270	秋	漢文学特殊研究ⅠB	CLT804-24j00	2	長尾 直茂		
DHJL7180	秋	漢文学特殊研究ⅡB	CLT802-24j00	2	福井 辰彦		

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
HUM899-24j00	瀬間 正之	
	豊島 正之	
	長尾 直茂	
	服部 隆	
	福井 辰彦	
	本廣 陽子	
	山本 章博	

英米文学専攻 博士前期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

【19年次生以降 Aコース (後期課程進学)】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考 (上限, その他)
総単位数	30		
授業科目			
▶必修科目	4		
└文学研究法 I	2		
└文学研究法 II	2		
▶選択科目	26		
└自専攻科目			
└自研究科他専攻科目			
└委託聴講科目			8単位まで修了に必要な単位として認められる ※ただし, 国連大学委託聴講科目は認められない
研究指導 (必修)		4	単位なし, 在学中毎学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および試験 に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士 論文登録をすること)

【20年次生以降 Bコース (前期課程完結)】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考 (上限, その他)
総単位数	30 または 38		
授業科目			
▶必修科目	4		
└文学研究法 I	2		
└文学研究法 II	2		
▶選択科目	26 または 34		修士論文を執筆する者は26単位 修士論文を執筆しない者は34単位を習得し, リサーチ・ペ ーパーを提出すること
└自専攻科目			
└自研究科他専攻科目			
└委託聴講科目			8単位まで修了に必要な単位として認められる ※ただし, 国連大学委託聴講科目は認められない
研究指導 (必修)		4	単位なし, 在学中毎学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文 またはリサーチ・ペーパー			必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および試験に 合格すること (修士論文またはリサーチ・ペーパーを提出する学期の履 修登録期間に必ず修士論文, リサーチ・ペーパーの登録 をすること)

【研究指導スケジュール】

4月に行うガイダンスで配布する「英米文学専攻（博士前期課程）における研究の進め方」で詳細を確認すること。

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) テーマ設定が明確であること。
- 2) 研究対象分野における過去の研究史を理解し、これを踏まえたくえで発見された研究課題であること。
- 3) 独自の知見を提示する研究であること。
- 4) 論文構成が的確で、論理展開が明確であること。
- 5) 言語表現が的確であり、形式と体裁に関する規定が守られていること。

【リサーチ・ペーパー審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出されたリサーチ・ペーパーを次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) テーマ設定が明確であること。
- 2) 研究対象分野における過去の研究史について一定の理解を示していること。
- 3) 構成が的確で、論理展開が明確であること。
- 4) 言語表現が的確であり、形式と体裁に関する規定が守られていること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
文学研究法Ⅰ *	2		
文学研究法Ⅱ *	2		
英文学特講・演習A1			2
英文学特講・演習A2			2
英文学特講・演習B1			2
英文学特講・演習B2			2
英文学特講・演習C1			2
英文学特講・演習C2			2
英文学特講・演習D1			2
英文学特講・演習D2			2
イギリス文化研究特講・演習1			2
イギリス文化研究特講・演習2			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
アメリカ文学特講・演習A1			2
アメリカ文学特講・演習A2			2
アメリカ文学特講・演習B1			2
アメリカ文学特講・演習B2			2
アメリカ文学特講・演習C1			2
アメリカ文学特講・演習C2			2
英語学英語教育特講・演習A1			2
英語学英語教育特講・演習A2			2
英語学英語教育特講・演習B1			2
英語学英語教育特講・演習B2			2
アメリカ文化研究特講・演習1			2
アメリカ文化研究特講・演習2			2
(他) 分野横断研究法：原理と技法			2

*M1対象

3. 履修上の注意

- 1) 英米文学専攻に所属する学生は、「大学院英米文学専攻履修上の注意」に従って履修すること。
- 2) 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件を参照すること。
- 3) 年度初めの専攻ガイダンスで「研究指導」の説明を行うので、必ず出席のこと。
- 4) 毎年度4月に専攻の定める「研究計画書」を提出すること。
- 5) 「文学研究法Ⅰ（必修）」、「文学研究法Ⅱ（必修）」を一年次に履修すること。
- 6) Bコース（前期課程完結）の学生の必要単位数は、修士論文を執筆する場合、30単位。修士論文を執筆しない場合は38単位を修得のうえ、リサーチペーパーを提出する。詳細は専攻の規定に従うこと。
- 7) 「(他) 分野横断研究法：原理と技法」（総合人間科学研究科心理学専攻開講 2022年度秋学期 金曜日5時限 2単位科目）について
分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設される。本科目により修得した単位は、自専攻科目として修了に必要な単位に算入される。
定員30名の抽選科目となるので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2022年度履修要覧〔ガイド・資料編〕p.31を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MHEL1001	秋	文学研究法 I	ELT501-25j00	2	松本 朗		
MHEL1002	春	文学研究法 II	ELT502-25e00	2	LOCKE Brian	○	
MHEL7201	春	英文学特講・演習 A1	ELT601-25j00	2	町本 亮大		
MHEL7202	春	英文学特講・演習 A2	ELT602-25j00	2	松本 朗		
MHEL7211	秋	英文学特講・演習 B1	ELT603-25j00	2	永富 友海		
MHEL7212	休講	英文学特講・演習 B2	ELT604-25j00	2			
MHEL7221	休講	英文学特講・演習 C1	ELT605-25j00	2			
MHEL7222	秋	英文学特講・演習 C2	ELT606-25j00	2	西 能史		
MHEL7231	休講	英文学特講・演習 D1	ELT607-25j00	2			
MHEL7232	休講	英文学特講・演習 D2	ELT608-25j00	2			
MHEL7251	秋	アメリカ文学特講・演習 A1	ELT609-25j00	2	増井 志津代		
MHEL7252	休講	アメリカ文学特講・演習 A2	ELT610-25j00	2			
MHEL7261	春	アメリカ文学特講・演習 B1	ELT611-25j00	2	大塚 寿郎		
MHEL7262	春	アメリカ文学特講・演習 B2	ELT612-25j00	2	下條 恵子		
MHEL7271	春	アメリカ文学特講・演習 C1	ELT613-25j00	2	飯野 友幸		
MHEL7272	秋	アメリカ文学特講・演習 C2	ELT614-25j00	2	山口 和彦		
MHEL7281	休講	英語学英語教育特講・演習 A1	LGE601-25e00	2			
MHEL7282	秋	英語学英語教育特講・演習 A2	LGE602-25e00	2	池田 真		
MHEL7291	春	英語学英語教育特講・演習 B1	LGE603-25j00	2	* 土屋 慶子	○	
MHEL7292	秋	英語学英語教育特講・演習 B2	LGE604-25j00	2	* 荊 紅涛	○	
MHEL7311	春	イギリス文化研究特講・演習 1	CUL601-25j00	2	* 舟川 一彦		
MHEL7312	休講	イギリス文化研究特講・演習 2	CUL602-25e00	2			
MHEL7321	休講	アメリカ文化研究特講・演習 1	CUL603-25j00	2			
MHEL7322	休講	アメリカ文化研究特講・演習 2	CUL604-25j00	2			
MHEL9120	秋	修士論文	ELT699-25j00	0	英米文学専攻各指導教員		M2 対象
MHEL9130	秋	リサーチ・ペーパー	ELT689-25j00	0	英米文学専攻各指導教員		M2 対象 (B コース選択者のみ)
MHPS7900	秋	分野横断研究法：原理と技法	PSY700-82j00	2	コーディネータ (他)松田 修 (総合人間科学研究科)		輪講 [30名] 博士前期課程または修士課程1年次生対象 (他) 総合人間科学研究科心理学専攻開講

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
ELT599-25j00	飯野 友幸	
	大塚 寿郎	
	増井 志津代	
	永富 友海	
	池田 真	
	松本 朗	
	西 能史	
	山口 和彦	
	下條 恵子	

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

【17年次生以降】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	12		
授業科目			
▶必修科目	12		
↳リーディング・コース	12		3年間で合計12単位
▶選択科目			
研究指導（必修）		6	単位なし, 在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士予備論文, 博士論文の審査および試験に合格すること

【研究指導スケジュール】

4月に行うガイダンスで配布する「英米文学専攻（博士後期課程）における研究の進め方」で詳細を確認すること。

【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために, 提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) テーマ設定が明確であること。
- 2) 研究対象分野における過去の研究史を理解し, これを踏まえた上で発見された研究課題であること。
- 3) 顕著な独創性を持った知見を提示し, これにより学界に何らかの貢献をなすものであること。
- 4) 論文構成が的確で, 論理展開が明確であること。
- 5) 言語表現が的確であり, 形式と体裁に関する規定が守られていること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
リーディング・コース1 A	2		
リーディング・コース1 B	2		
リーディング・コース2 A	2		
リーディング・コース2 B	2		
リーディング・コース3 A	2		
リーディング・コース3 B	2		
リーディング・コース4 A	2		
リーディング・コース4 B	2		
リーディング・コース5 A	2		
リーディング・コース5 B	2		
リーディング・コース6 A	2		
リーディング・コース6 B	2		
リーディング・コース7 A	2		
リーディング・コース7 B	2		
リーディング・コース8 A	2		
リーディング・コース8 B	2		
リーディング・コース9 A	2		
リーディング・コース9 B	2		
リーディング・コース10A	2		
リーディング・コース10B	2		

注) 2015 年度より通年から学期開講に分割された。

3. 履修上の注意

年度初めの専攻ガイダンスで「研究指導」の説明を行うので、必ず出席すること。また専攻の定める「研究計画書」を提出すること。

後期課程の学生は、3年間に、指導教員を含めて3名の教員によるリーディング・コースを1名につき2学期分ずつ履修することにより12単位を与えられる。コースは英文学、アメリカ文学、英語学の3分野からできるだけ万遍なく選択するように心がけるべきである。すべてが同じ分野のものであってはいけない。また、同じ教員のコースを、2学期を超えて履修することはできない。将来、課程博士論文を提出して学位を得ようとする者は、リーディング・コースの履修に加えて、自分の専門分野における3年間の研究成果を修了論文あるいは博士予備論文として提出し、専攻所属教員による審査を受ける。修了論文あるいは博士予備論文については、英米文学専攻内規に詳細を定める。

なお、「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件を参照すること。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
DHEL3411	春	リーディング・コース 1A	ELT801-25j00	2	松本 朗		
DHEL3421	休講	リーディング・コース 2A	ELT803-25j00	2			
DHEL3431	春	リーディング・コース 3A	ELT805-25j00	2	飯野 友幸		
DHEL3441	休講	リーディング・コース 4A	ELT807-25j00	2			
DHEL3461	春	リーディング・コース 6A	ELT811-25j00	2	永富 友海		
DHEL3451	春	リーディング・コース 5A	ELT809-25j00	2	増井 志津代		
DHEL3471	春	リーディング・コース 7A	ELT813-25j00	2	池田 真		
DHEL3481	春	リーディング・コース 8A	ELT815-25j00	2	山口 和彦		
DHEL3491	春	リーディング・コース 9A	ELT817-25j00	2	西 能史		
DHEL3511	春	リーディング・コース 10A	ELT819-25j00	2	下條 恵子		
DHEL3412	秋	リーディング・コース 1B	ELT802-25j00	2	松本 朗		
DHEL3422	休講	リーディング・コース 2B	ELT804-25j00	2			
DHEL3432	秋	リーディング・コース 3B	ELT806-25j00	2	飯野 友幸		
DHEL3442	休講	リーディング・コース 4B	ELT808-25j00	2			
DHEL3452	秋	リーディング・コース 5B	ELT810-25j00	2	増井 志津代		
DHEL3462	秋	リーディング・コース 6B	ELT812-25j00	2	永富 友海		
DHEL3472	秋	リーディング・コース 7B	ELT814-25j00	2	池田 真		
DHEL3482	秋	リーディング・コース 8B	ELT816-25j00	2	山口 和彦		
DHEL3492	秋	リーディング・コース 9B	ELT818-25j00	2	西 能史		
DHEL3512	秋	リーディング・コース 10B	ELT820-25j00	2	下條 恵子		

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
ELT899-25j00	飯野 友幸	
	大塚 寿郎	
	増井 志津代	
	永富 友海	
	池田 真	
	松本 朗	
	西 能史	
	山口 和彦	
	下條 恵子	

ドイツ文学専攻 博士前期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	30		
授業科目			
・選択科目	30		
└自専攻科目			
└自研究科他専攻科目			
└委託聴講科目			10単位まで修了に必要な単位として認める
研究指導（必修）		4	単位なし, 在学中毎学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および試験に 合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士 論文登録をすること)

【研究指導スケジュール】※

事項	期日	対象	備考
ガイダンスおよび 指導教員の決定・確認	4月上旬	M1, M2	
研究計画書の提出	5月末まで	M1, M2	毎年度提出すること。
修士論文計画書の提出	5月末まで	M2	修士論文提出年度に提出。
雑誌Stufeの「研究ノー ト」※※ の題目の決定	夏休み前まで	M1, M2	執筆は任意
修士論文中間発表会	10月	M2	修士論文提出年度に実施。
修士論文の履修登録	9月下旬～10月上旬	M2	履修登録期間中に各自で履 修登録を行うこと。
雑誌Stufeの「研究ノー ト」の提出	10月末まで		
修士論文の提出	1月中旬	M2	
論文審査・口述試験	2月中旬	M2	
研究報告書の提出	3月末まで	M1, M2	毎年度提出すること。
修士論文の題目の決定	3月末まで	M1	

※ 書式や提出期限に係る詳細は、4月上旬の専攻ガイダンスで配布する「ガイダンス資料」を参照のこと。

※※ 院生による雑誌 Stufe には、希望する者は「研究ノート」を執筆することができる。

執筆を希望する場合には、指導教員の指導の下で作成し、Stufe 担当教員の査読を受ける。

【修士論文審査基準】

自立した研究者に必要な資質と能力を示す論文であること。

- 1) テーマ設定が的確であること。
- 2) 関連する先行研究を踏まえ、論文の位置づけが明確にされていること。
- 3) 論文の構成が適切であり、論理展開が明快であること。
- 4) 伝えるべきことを十全に伝える言語表現がなされていること。
- 5) 引用などに関する規定が守られていること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
<文学研究系列>			
ドイツ文学研究Ⅰa			2
ドイツ文学研究Ⅰb			2
ドイツ文学研究Ⅱa			2
ドイツ文学研究Ⅱb			2
ドイツ文学研究Ⅲa			2
ドイツ文学研究Ⅲb			2
ドイツ文学研究Ⅳa			2
ドイツ文学研究Ⅳb			2
ドイツ文学研究Ⅴa			2
ドイツ文学研究Ⅴb			2
ドイツ文学研究Ⅵa			2
ドイツ文学研究Ⅵb			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
<文化研究系列>			
ドイツ文化研究Ⅰa			2
ドイツ文化研究Ⅰb			2
ドイツ文化研究Ⅱa			2
ドイツ文化研究Ⅱb			2
ドイツ文化研究Ⅲa			2
ドイツ文化研究Ⅲb			2
<言語研究系列>			
(他) ドイツ語統語論 1 ※注 1			2
(他) ドイツ語統語論 2 ※注 1			2
(他) ドイツ語文体論 1 ※注 1			2
(他) ドイツ語文体論 2 ※注 1			2
(他) ドイツ語音声学・音韻論 1 ※注 1			2
(他) ドイツ語音声学・音韻論 2 ※注 1			2
(他) ドイツ語教育 1 ※注 1			2
(他) ドイツ語教育 2 ※注 1			2
(他) ドイツ語意味論 1 ※注 1			2
(他) ドイツ語意味論 2 ※注 1			2
<大学院分野横断科目>			
(他) 分野横断研究法：原理と技法 ※注 2			2

※注 1 言語学専攻開講科目。詳細はp. 213～p. 214参照。

※注 2 大学院分野横断型科目（心理学専攻開講科目）

3. 履修上の注意

1) 前期課程の学生は、指導教員の指導のもとに修士論文を作成すること。

また、「研究指導」を在学中毎学期受けること。研究指導の具体的な内容については、学年始めのガイダンスにおいて資料を配付の上、説明を行う。なお、2017 年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。

1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件を参照すること。

2) 「(他) 分野横断研究法：原理と技法」（総合人間科学研究科心理学専攻開講 2022 年度秋学期 金曜日 5 時限 2 単位科目）について

分野横断型の科目として、2022 年度から新たに開設される。本科目により修得した単位は、自専攻科目として修了に必要な単位に算入される。

定員 30 名の抽選科目となるので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2022 年度履修要覧〔ガイド・資料編〕 p. 31 を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MHGL7310	休講	ドイツ文学研究Ⅰ a	GLT501-26j00	2			
MHGL7320	春	ドイツ文学研究Ⅰ b	GLT601-26j00	2	* 高橋 明彦		博士後期課程「ドイツ文学特殊研究Ⅰ b」と合併
MHGL7330	休講	ドイツ文学研究Ⅱ a	GLT502-26g00	2			
MHGL7340	休講	ドイツ文学研究Ⅱ b	GLT602-26g00	2			
MHGL7350	春	ドイツ文学研究Ⅲ a	GLT503-26j00	2	佐藤 朋之		博士後期課程「ドイツ文学特殊研究Ⅲ a」と合併
MHGL7360	秋	ドイツ文学研究Ⅲ b	GLT603-26j00	2	佐藤 朋之		博士後期課程「ドイツ文学特殊研究Ⅲ b」と合併
MHGL7370	休講	ドイツ文学研究Ⅳ a	GLT504-26j00	2			
MHGL7380	秋	ドイツ文学研究Ⅳ b	GLT604-26g00	2	* PEKAR Thomas	○	博士後期課程「ドイツ文学特殊研究Ⅳ b」と合併
MHGL7390	休講	ドイツ文学研究Ⅴ a	GLT505-26j00	2			
MHGL7400	春	ドイツ文学研究Ⅴ b	GLT605-26j00	2	* 初見 基		博士後期課程「ドイツ文学特殊研究Ⅴ b」と合併
MHGL7410	休講	ドイツ文学研究Ⅵ a	GLT506-26j00	2			
MHGL7420	秋	ドイツ文学研究Ⅵ b	GLT606-26j00	2	中村 朝子		博士後期課程「ドイツ文学特殊研究Ⅵ b」と合併
MHGL7610	春	ドイツ文化研究Ⅰ a	GLT507-26j00	2	DUPPEL Mechthild	○	博士後期課程「ドイツ文化特殊研究Ⅰ a」と合併
MHGL7620	秋	ドイツ文化研究Ⅰ b	GLT607-26j00	2	DUPPEL Mechthild	○	博士後期課程「ドイツ文化特殊研究Ⅰ b」と合併
MHGL7630	春	ドイツ文化研究Ⅱ a	GLT508-26g00	2	小松原 由理		博士後期課程「ドイツ文化特殊研究Ⅱ a」と合併
MHGL7640	秋	ドイツ文化研究Ⅱ b	GLT608-26g00	2	小松原 由理		博士後期課程「ドイツ文化特殊研究Ⅱ b」と合併
MHGL7650	秋	ドイツ文化研究Ⅲ a	GLT509-26j00	2	* 佐藤 直樹		博士後期課程「ドイツ文化特殊研究Ⅲ a」と合併
MHGL7660	休講	ドイツ文化研究Ⅲ b	GLT609-26j00	2			
MHGL9280	秋	修士論文	GLT699-26m00	0	ドイツ文学専攻各 指導教員		M2 対象

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
GLT599-26m00	中村 朝子	
	佐藤 朋之	
	DUPPEL Mechthild	
	中井 真之	
	ZEMSAUER Christian	休講
	小松原 由理	

ドイツ文学専攻 博士後期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	14		
授業科目			
▶ 選択科目	14		
└ 自専攻科目			
研究指導（必修）		6	単位なし, 在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に 合格すること

【研究指導スケジュール】※

事項	期日	対象	備考
ガイダンスおよび 指導教員の決定・確認	4月上旬	D1, D2, D3	
研究計画書の提出	5月末まで	D1, D2, D3	毎年度提出すること。
雑誌 Stufe の論文の題目の 決定	夏休み前まで	D1, D2, D3	
雑誌 Stufe の論文提出	10月末まで	D1, D2, D3	
後期課程修了論文の提出	1月中旬	D3	博士後期課程を博士論文未 提出で終わる場合には, 修 了時に提出する。
研究報告書の提出	3月末まで	D1, D2	毎年度提出すること。
博士論文作成計画書の提出	論文提出前年度の6月まで	D3	「ドイツ文学専攻博士学位 授与に関する内規」を参照 のこと。
博士論文の提出		D3	「ドイツ文学専攻博士学位 授与に関する内規」を参照 のこと。
論文審査・口述試験		D3	「ドイツ文学専攻博士学位 授与に関する内規」を参照 のこと。

※ 書式や提出期限にかかわる詳細は, 4月上旬の専攻ガイダンスで配布する「ガイダンス資料」を参照のこと。

【博士論文審査基準】

自立した研究者として, 専門分野において独自の貢献を行うことができる能力を示す論文であること。

- 1) テーマ設定が的確であり, 専門分野に新たな知見をもたらすものであること。
- 2) 関連する先行研究を踏まえ, 論文の位置づけが明確にされていること。
- 3) 論文の構成が適切であり, 論理展開が明快であること。
- 4) 伝えるべきことを十全に伝える言語表現がなされていること。
- 5) 引用などに関する規定が守られていること。

なお, 博士論文を提出するための前提条件等に関しては, ドイツ文学専攻博士学位授与に関する内規を参照のこと。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
<文学研究系列>			
ドイツ文学特殊研究Ⅰa			2
ドイツ文学特殊研究Ⅰb			2
ドイツ文学特殊研究Ⅱa			2
ドイツ文学特殊研究Ⅱb			2
ドイツ文学特殊研究Ⅲa			2
ドイツ文学特殊研究Ⅲb			2
ドイツ文学特殊研究Ⅳa			2
ドイツ文学特殊研究Ⅳb			2
ドイツ文学特殊研究Ⅴa			2
ドイツ文学特殊研究Ⅴb			2
ドイツ文学特殊研究Ⅵa			2
ドイツ文学特殊研究Ⅵb			2
<文化研究系列>			
ドイツ文化特殊研究Ⅰa			2
ドイツ文化特殊研究Ⅰb			2
ドイツ文化特殊研究Ⅱa			2
ドイツ文化特殊研究Ⅱb			2
ドイツ文化特殊研究Ⅲa			2
ドイツ文化特殊研究Ⅲb			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
<言語研究系列>			
(他) ドイツ語統語論1 ※注1			2
(他) ドイツ語統語論2 ※注1			2
(他) ドイツ語文体論1 ※注1			2
(他) ドイツ語文体論2 ※注1			2
(他) ドイツ語音声学・音韻論1 ※注1,注2			2
(他) ドイツ語音声学・音韻論2 ※注1,注2			2
(他) ドイツ語教育1 ※注1			2
(他) ドイツ語教育2 ※注1			2
(他) ドイツ語意味論1 ※注1			2
(他) ドイツ語意味論2 ※注1			2

※注1 言語学専攻開講科目。詳細はp. 213～p. 214参照。

※注2 2018年度に「ドイツ語音韻論1」「ドイツ語音韻論2」から科目名変更

3. 履修上の注意

- 1) 後期課程の学生は、指導教員の「研究指導」を在学中毎学期受けること。研究指導の具体的な内容については、学年始めのガイダンスにおいて資料を配付の上、説明を行う。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件を参照すること。
- 2) 指導教員開講科目は必ず履修すること。
- 3) 指導教員以外の開講科目より4科目8単位は履修すること。
- 4) 博士論文を作成し、提出したい者は、「ドイツ文学専攻博士学位授与に関する内規」に従って所定の手続きをとること。
- 5) 博士論文を提出せずに満期退学する場合も、在籍中の研究成果を論文、もしくは論文に準ずる形で提出しなければならない。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
DHGL7500	休講	ドイツ文学特殊研究Ⅰ a	GLT801-26j00	2			
DHGL7501	春	ドイツ文学特殊研究Ⅰ b	GLT802-26j00	2	* 高橋 明彦		博士前期課程「ドイツ文化研究Ⅰ b」と合併
DHGL7502	休講	ドイツ文学特殊研究Ⅱ a	GLT803-26g00	2			
DHGL7503	休講	ドイツ文学特殊研究Ⅱ b	GLT804-26g00	2			
DHGL7504	春	ドイツ文学特殊研究Ⅲ a	GLT805-26j00	2	佐藤 朋之		博士前期課程「ドイツ文化研究Ⅲ a」と合併
DHGL7505	秋	ドイツ文学特殊研究Ⅲ b	GLT806-26j00	2	佐藤 朋之		博士前期課程「ドイツ文化研究Ⅲ b」と合併
DHGL7506	休講	ドイツ文学特殊研究Ⅳ a	GLT807-26j00	2			
DHGL7507	秋	ドイツ文学特殊研究Ⅳ b	GLT808-26g00	2	* PEKAR Thomas	○	博士前期課程「ドイツ文化研究Ⅳ b」と合併
DHGL7508	休講	ドイツ文学特殊研究Ⅴ a	GLT809-26j00	2			
DHGL7509	春	ドイツ文学特殊研究Ⅴ b	GLT810-26j00	2	* 初見 基		博士前期課程「ドイツ文化研究Ⅴ b」と合併
DHGL7510	休講	ドイツ文学特殊研究Ⅵ a	GLT811-26j00	2			
DHGL7511	秋	ドイツ文学特殊研究Ⅵ b	GLT812-26j00	2	中村 朝子		博士前期課程「ドイツ文学研究Ⅵ b」と合併
DHGL7700	春	ドイツ文化特殊研究Ⅰ a	GLT813-26j00	2	DUPPEL Mechthild	○	博士前期課程「ドイツ文化研究Ⅰ a」と合併
DHGL7701	秋	ドイツ文化特殊研究Ⅰ b	GLT814-26j00	2	DUPPEL Mechthild	○	博士前期課程「ドイツ文化研究Ⅰ b」と合併
DHGL7702	春	ドイツ文化特殊研究Ⅱ a	GLT815-26g00	2	小松原 由理		博士前期課程「ドイツ文化研究Ⅱ a」と合併
DHGL7703	秋	ドイツ文化特殊研究Ⅱ b	GLT816-26g00	2	小松原 由理		博士前期課程「ドイツ文化研究Ⅱ b」と合併
DHGL7704	秋	ドイツ文化特殊研究Ⅲ a	GLT817-26j00	2	* 佐藤 直樹		博士前期課程「ドイツ文化研究Ⅲ a」と合併
DHGL7705	休講	ドイツ文化特殊研究Ⅲ b	GLT818-26j00	2			

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
GLT899-26m00	中村 朝子	
	佐藤 朋之	
	DUPPEL Mechthild	
	中井 真之	
	ZEMSAUER Christian	休講
	小松原 由理	

フランス文学専攻 博士前期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

【17年次生以降】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	30		
授業科目			
▶選択科目	30		
└自専攻科目			
└A群	24		
└B群			
└自研究科他専攻科目			
└委託聴講科目			10単位まで修了に必要な単位として認められる ※ただし, 国連大学委託聴講科目は認められない
研究指導（必修）		4	単位なし, 在学中毎学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること)

【16年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	30		
授業科目			
▶選択科目	30		
└自専攻科目			
└A群	24		
└B群			
└自研究科他専攻科目			
└委託聴講科目			10単位まで修了に必要な単位として認められる ※ただし, 国連大学委託聴講科目は認められない
研究指導（必修）			単位なし, 在学中毎学期登録される
修士論文			必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること)

【研究指導スケジュール】

事項	期日	対象	備考
年次計画書の提出	4月末まで	M1, M2	毎年度提出すること
研究報告書の提出	2月末まで	M1, M2	毎年度提出すること
修士論文計画書の提出	5月上旬	M2	修士論文提出年度に提出
修士論文中間発表会	10月上旬	M2	修士論文提出年度に実施
修士論文の履修登録	9月下旬 ～10月上旬	M2	履修登録期間中に各自で履修登録を行うこと

事項	期日	対象	備考
修士論文の提出	1月中旬	M2	
論文審査・口述試験	2月中旬	M2	

※書式や提出期限に係る詳細は、4月実施の専攻ガイダンスで配布するマニュアルを参照のこと。

※9月修了希望者は、上記に係る期日を別途指定するため、履修登録前に必ず指導教員に連絡をとり、スケジュール等詳細について確認すること。

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 研究の内容に社会的・学術的意義が認められるものであること。
- 2) 研究テーマが明確で、問題設定が適切なものであること。
- 3) 先行研究が十分に参照され、引用が適切に明記されていること。
- 4) 論文の構成が的確になされ、論理の展開が明晰であること。
- 5) 論文の言語表現が正しく、目次と本文に整合性があること。

(論文のあり方全般や規格については、ガイダンスの時に配布するマニュアルを参照のこと。)

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
< A群 >			
19世紀小説研究 I			2
19世紀小説研究 II			2
モデルニテ研究 I ※注3			2
モデルニテ研究 II ※注3			2
20世紀文学研究 I			2
20世紀文学研究 II			2
古典主義文学研究 I			2
古典主義文学研究 II			2
キリスト教文学研究 I			2
キリスト教文学研究 II			2
テキストとイメージ研究 I			2
テキストとイメージ研究 II			2
自伝文学研究 I			2
自伝文学研究 II			2
アンシャン・レジーム文学研究 I			2
アンシャン・レジーム文学研究 II			2
専門文献研究 A I			2
専門文献研究 A II			2

科目名 ※(他)：他専攻開講科目	単位数		
	必修	選必	選択
専門文献研究 B I			2
専門文献研究 B II			2
専門文献研究 C I			2
専門文献研究 C II			2
専門文献研究 D I			2
専門文献研究 D II			2
(他) 翻訳文化研究 II A [17年次生以前] ※注1			2
(他) 翻訳文化研究 II B [17年次生以前] ※注1			2
< B群 >			
フランス語小論文作成法			2
(他) フランス語文法論1 ※注2			2
(他) フランス語文法論2 ※注2			2
(他) フランス語音声学1 ※注2			2
(他) フランス語音声学2 ※注2			2
(他) フランス語特殊研究1 ※注2			2
(他) フランス語特殊研究2 ※注2			2
(他) 分野横断研究法：原理と技法 ※注4			2

※注1：文化交渉学専攻開講科目。詳細はp. 91参照
18年次生より借り入れを中止する。

※注2：言語学専攻開講科目。詳細はp. 213～p. 214参照。

※注3：2020年度まで開講

※注4：大学院分野横断型科目（心理学専攻開講科目）

3. 履修上の注意

- 1) 指導教員の「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、2017 年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。1. 修了に要する科目，単位数，科目数などの要件を参照すること。
- 2) A 群より 24 単位履修すること。
- 3) A 群・B 群いずれの科目も，繰り返し履修することが可能である。
- 4) 委託聴講科目の単位は A 群科目として認定する。
- 5) 4 月初旬のガイダンスにおいて配布される「フランス文学専攻マニュアル」を参照のこと。
- 6) 「(他) 分野横断研究法：原理と技法」(総合人間科学研究科心理学専攻開講 2022 年度秋学期 金曜日 5 時限 2 単位科目) について
分野横断型の科目として，2022 年度から新たに開設される。本科目により修得した単位は，自専攻科目として修了に必要な単位に算入される。
定員 30 名の抽選科目となるので，抽選エントリーの期間や方法，抽選後の先着順での登録方法等について，2022 年度履修要覧〔ガイド・資料編〕 p.31 を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MHFL7120	春	自伝文学研究Ⅱ	FLT504-27f00	2	PEYRON Bruno	○	
MHFL7300	春	テキストとイメージ研究Ⅰ	FLT509-27m00	2	(他)實谷 総一郎		
MHFL7320	春	19世紀小説研究Ⅰ	FLT507-27m00	2	博多 かおる		
MHFL7380	春	専門文献研究AⅠ	FLT513-27m00	2	* シモン=及川 マリアヌス	○	
MHFL7400	春	専門文献研究BⅠ	FLT515-27m00	2	* 小黒 昌文		
MHFL7420	春	専門文献研究CⅠ	FLT517-27m00	2	* 吉村 和明		
MHFL7160	秋	アンシャン・レジーム文学研究Ⅱ	FLT506-27f00	2	DESPREZ Michaël	○	
MHFL7330	秋	19世紀小説研究Ⅱ	FLT508-27m00	2	博多 かおる		
MHFL7370	秋	20世紀文学研究Ⅱ	FLT512-27m00	2	永井 敦子		
MHFL7430	秋	専門文献研究CⅡ	FLT518-27m00	2	* 三ツ堀 広一郎		
MHFL7450	秋	専門文献研究DⅡ	FLT520-27m00	2	* 根木 昭英		
MHFL7490	秋	キリスト教文学研究Ⅱ	FLT523-27m00	2	福田 耕介		
MHFL9300	秋	修士論文	FLT699-27m00	0	フランス文学専攻 各指導教員		M2 対象
MHFL7090	休講	古典主義文学研究Ⅰ	FLT501-27m00	2			
MHFL7100	休講	古典主義文学研究Ⅱ	FLT502-27m00	2			
MHFL7110	休講	自伝文学研究Ⅰ	FLT503-27f00	2		○	
MHFL7150	休講	アンシャン・レジーム文学研究Ⅰ	FLT505-27f00	2		○	
MHFL7310	休講	テキストとイメージ研究Ⅱ	FLT510-27m00	2			
MHFL7360	休講	20世紀文学研究Ⅰ	FLT511-27m00	2			
MHFL7390	休講	専門文献研究AⅡ	FLT514-27m00	2			
MHFL7410	休講	専門文献研究BⅡ	FLT516-27m00	2			
MHFL7440	休講	専門文献研究DⅠ	FLT519-27m00	2			
MHFL7460	休講	フランス語小論文作成法	FLT521-27f00	2		○	
MHFL7480	休講	キリスト教文学研究Ⅰ	FLT522-27m00	2			

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
FLT599-27m00	永井 敦子	
	小倉 博孝	休講
	福田 耕介	
	博多 かおる	
	DESPREZ Michaël	
	PEYRON Bruno	

フランス文学専攻 博士後期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

【17年次生以降】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考 (上限, その他)
総単位数	6		
↳ 選択科目	6		
↳ 自専攻科目			
研究指導 (必修)		6	単位なし, 在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に 合格すること

【12~14年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考 (上限, その他)
総単位数			
研究指導 (必修)			単位なし, 在学中毎学期登録される
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に 合格すること

【研究指導スケジュール】

事項	期日	対象	備考
年次計画書の提出	4月末まで	D1, D2, D3	毎年度提出すること
研究報告書の提出	2月末まで	D1, D2, D3	毎年度提出すること
博士論文計画書の提出	7月上旬	D1	
博士論文中間発表会	7, 12月中旬	D1, D2, D3	
博士論文審査の申請	論文提出年度の 6月末まで	D3	
博士論文の提出	審査半年前まで	D3	指導教員と相談の上
論文審査・口述試験		D3	指導教員と相談の上

※書式や提出期限に係る詳細は, 4月実施の専攻ガイダンスで配布するマニュアルを参照のこと。

【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために, 提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 研究の内容に社会的・学術的意義が認められるものであること。
- 2) 研究テーマが明確で, 問題設定が適切なものであること。
- 3) 先行研究が十分に参照され, 引用が適切に明記されていること。
- 4) 論文の構成が的確になされ, 論理の展開が明晰であること。
- 5) 論文の言語表現が正しく, 目次と本文に整合性があること。
- 6) 研究分野における先端的成果とみなされるものであること。
(論文のあり方全般や規格については, ガイダンスの時に配布するマニュアルを参照のこと。)

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
19世紀小説特殊研究Ⅰ			2
19世紀小説特殊研究Ⅱ			2
モデルニテ特殊研究Ⅰ ※注1			2
モデルニテ特殊研究Ⅱ ※注1			2
20世紀文学特殊研究Ⅰ			2
20世紀文学特殊研究Ⅱ			2
古典主義文学特殊研究Ⅰ			2
古典主義文学特殊研究Ⅱ			2
キリスト教文学特殊研究Ⅰ			2

科目名 ※(他)：他専攻開講科目	単位数		
	必修	選必	選択
キリスト教文学特殊研究Ⅱ			2
テキストとイメージ特殊研究Ⅰ			2
テキストとイメージ特殊研究Ⅱ			2
自伝文学特殊研究Ⅰ			2
自伝文学特殊研究Ⅱ			2
アンシャン・レジーム文学特殊研究Ⅰ			2
アンシャン・レジーム文学特殊研究Ⅱ			2

※注1：2020年度まで開講

3. 履修上の注意

- 1) 17年次生以降の学生は、後期課程在籍中に開講科目の中から最低6単位を修得すること。
- 2) 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件を参照すること。
- 3) 4月初旬のガイダンスにおいて配布される「フランス文学専攻マニュアル」を参照のこと。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
DHFL7040	春	自伝文学特殊研究Ⅱ	FLT804-27f00	2	PEYRON Bruno	○	
DHFL7070	春	19世紀小説特殊研究Ⅰ	FLT807-27m00	2	博多 かおる		
DHFL7150	春	テキストとイメージ特殊研究Ⅰ	FLT815-27m00	2	(他)實谷 総一郎		
DHFL7060	秋	アンシャン・レジーム文学特殊研究Ⅱ	FLT806-27f00	2	DESPREZ Michaël	○	
DHFL7080	秋	19世紀小説特殊研究Ⅱ	FLT808-27m00	2	博多 かおる		
DHFL7120	秋	20世紀文学特殊研究Ⅱ	FLT812-27m00	2	永井 敦子		
DHFL7140	秋	キリスト教文学特殊研究Ⅱ	FLT814-27m00	2	福田 耕介		
DHFL7010	休講	古典主義文学特殊研究Ⅰ	FLT801-27m00	2			
DHFL7020	休講	古典主義文学特殊研究Ⅱ	FLT802-27m00	2			
DHFL7030	休講	自伝文学特殊研究Ⅰ	FLT803-27f00	2		○	
DHFL7050	休講	アンシャン・レジーム文学特殊研究Ⅰ	FLT805-27f00	2		○	
DHFL7110	休講	20世紀文学特殊研究Ⅰ	FLT811-27m00	2			
DHFL7130	休講	キリスト教文学特殊研究Ⅰ	FLT813-27m00	2			
DHFL7160	休講	テキストとイメージ特殊研究Ⅱ	FLT816-27m00	2			

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
FLT899-27m00	永井 敦子	
	小倉 博孝	休講
	福田 耕介	
	博多 かおる	
	DESPREZ Michaël	
	PEYRON Bruno	

新聞学専攻 博士前期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考 (上限, その他)
総単位数	30		
授業科目			
・必修科目	20		
└コミュニケーション論特講Ⅰ・Ⅱ	各2		
└ジャーナリズム史特講Ⅰ・Ⅱ	各2		
└マス・メディア論特講Ⅰ・Ⅱ	各2		
└論文演習Ⅰa	2		
└論文演習Ⅰb	2		
└論文演習Ⅱa	2		
└論文演習Ⅱb	2		
・選択科目	10		
└自専攻科目			
└自研究科他専攻			
└委託聴講科目			10単位まで修了に必要な単位として認められる (履修要覧 [ガイド・資料編] P. 70参照)
研究指導 (必修)		4	単位なし, 在学中每学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること)

【研究指導スケジュール】

	期日	対象	備考
博士前期課程研究計画書の提出	5月上旬	M1	
修士論文計画書の提出	5月上旬	M2	修士論文を提出する年度に提出すること。
修士論文中間発表会	9月下旬～10 月中旬	M2	修士論文を提出する年度に実施する。
修士論文の履修登録	9月下旬～10 月上旬	M2	履修登録期間中に履修登録を行うこと。
修士論文の提出	1月中旬	M2	
論文審査・口述試験	2月中旬	M2	

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために, 提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 問題意識が明確で, テーマが十分に絞り込まれていること。
- 2) 先行研究が十分に参照され, 引用が的確になされていること。
- 3) 研究目的に照らして, 研究のデザイン・分析方法等が適切であること。
- 4) 論文構成が的確で, 論理展開に整合性・一貫性があること。
- 5) 論文の言語表現が的確で正しく, 目次・注釈等に関する体裁が整っていること。
- 6) 得られた知見にオリジナリティがあり, 新聞学の研究に寄与するものであること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
コミュニケーション論特講Ⅰ	2		
コミュニケーション論特講Ⅱ	2		
コミュニケーション論演習			2
ジャーナリズム史特講Ⅰ	2		
ジャーナリズム史特講Ⅱ	2		
ジャーナリズム史演習			2
マス・メディア論特講Ⅰ	2		
マス・メディア論特講Ⅱ	2		
マス・メディア論演習			2
新聞論特講Ⅰ			2
新聞論特講Ⅱ			2
放送論特講Ⅰ			2
放送論特講Ⅱ			2
広告論特講Ⅰ			2
広告論特講Ⅱ			2
広報論特講Ⅰ			2
広報論特講Ⅱ			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
マス・コミュニケーション法制特講Ⅰ			2
マス・コミュニケーション法制特講Ⅱ			2
米州のマス・メディア論特講Ⅰ			2
米州のマス・メディア論特講Ⅱ			2
国際コミュニケーション論特講Ⅰ			2
国際コミュニケーション論特講Ⅱ			2
情報科学論特講Ⅰ			2
情報科学論特講Ⅱ			2
マス・コミュニケーション調査特講Ⅰ			2
マス・コミュニケーション調査特講Ⅱ			2
論文演習Ⅰa	2		
論文演習Ⅰb	2		
論文演習Ⅱa	2		
論文演習Ⅱb	2		

3. 履修上の注意

- 1) 指導教員の「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件を参照すること。
- 2) 前期課程において修士論文を提出するに際しては、その概要書（A4横書・40字・35行で4枚程度）も併せて提出すること。
- 3) 必修及び選択科目「Ⅱ」の科目については、原則同一科目名の「Ⅰ」を履修していなければならない。
- 4) 「分野横断研究法：原理と技法」（総合人間科学研究科心理学専攻開講 2022年度秋学期 金曜日5時限 2単位科目）について

分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設される。本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能。定員30名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2022年度履修要覧〔ガイド・資料編〕p.31を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MHJN1000	春	コミュニケーション論特講 I	JRN520-28j00	2	渡邊 久哲		後期課程「コミュニケーション論特殊研究 I a」と合併
MHJN1040	春	ジャーナリズム史特講 I	JRN522-28j00	2	鈴木 雄雅		後期課程「ジャーナリズム史特殊研究 I」と合併
MHJN1070	春	マス・メディア論特講 I	JRN524-28j00	2	音 好宏		
MHJN1271	春	論文演習 I a	JRN516-28j00	2	音 好宏		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1301	春	論文演習 I a	JRN516-28j00	2	渡邊 久哲		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1311	春	論文演習 I a	JRN516-28j00	2	阿部 るり		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1321	春	論文演習 I a	JRN516-28j00	2	柴野 京子		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1341	春	論文演習 I a	JRN516-28j00	2	水島 宏明		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1351	春	論文演習 I a	JRN516-28j00	2	国枝 智樹		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1361	春	論文演習 I a	JRN516-28j00	2	奥山 俊宏		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1371	春	論文演習 I a	JRN516-28j00	2	高橋 直治		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1381	春	論文演習 I a	JRN516-28j00	2	アルン デソーザ		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2031	春	論文演習 II a	JRN601-28j00	2	音 好宏		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2061	春	論文演習 II a	JRN601-28j00	2	渡邊 久哲		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2071	春	論文演習 II a	JRN601-28j00	2	阿部 るり		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2081	春	論文演習 II a	JRN601-28j00	2	柴野 京子		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2101	春	論文演習 II a	JRN601-28j00	2	水島 宏明		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2111	春	論文演習 II a	JRN601-28j00	2	国枝 智樹		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2121	春	論文演習 II a	JRN601-28j00	2	奥山 俊宏		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2131	春	論文演習 II a	JRN601-28j00	2	高橋 直治		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2141	春	論文演習 II a	JRN601-28j00	2	アルン デソーザ		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN7020	春	コミュニケーション論演習	JRN501-28e00	2	国枝 智樹	○	
MHJN7101	春	マス・コミュニケーション法制特講 I	JRN526-28j00	2	* 清水 直樹		後期課程「マス・メディア論特殊研究 II a」と合併
MHJN7111	春	米州のマス・メディア論特講 I	JRN514-28j00	2	* 尾崎 元		
MHJN7150	春	新聞論特講 I	JRN504-28j00	2	奥山 俊宏		後期課程「マス・メディア論特殊研究 I a」と合併
MHJN7170	春	放送論特講 I	JRN506-28j00	2	水島 宏明		
MHJN7190	春	国際コミュニケーション論特講 I	JRN508-28j00	2	阿部 るり		
MHJN7210	春	情報科学論特講 I	JRN510-28j00	2	音 好宏		
MHJN7230	春	マス・コミュニケーション調査特講 I	JRN512-28j00	2	渡邊 久哲		
MHJN7250	春	広報論特講 I	JRN528-28j00	2	国枝 智樹		
MHJN9211	春	修士論文	JRN699-28j00	0	新聞学専攻各指導教員		M2 対象 ※9 月修了希望者のみ登録可
MHJN1020	秋	コミュニケーション論特講 II	JRN521-28j00	2	渡邊 久哲		後期課程「コミュニケーション論特殊研究 I b」と合併
MHJN1060	秋	ジャーナリズム史特講 II	JRN523-28j00	2	鈴木 雄雅		後期課程「ジャーナリズム史特殊研究 II」と合併
MHJN1080	秋	マス・メディア論特講 II	JRN525-28j00	2	音 好宏		
MHJN1272	秋	論文演習 I b	JRN517-28j00	2	音 好宏		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1302	秋	論文演習 I b	JRN517-28j00	2	渡邊 久哲		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1312	秋	論文演習 I b	JRN517-28j00	2	阿部 るり		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1322	秋	論文演習 I b	JRN517-28j00	2	柴野 京子		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1342	秋	論文演習 I b	JRN517-28j00	2	水島 宏明		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1352	秋	論文演習 I b	JRN517-28j00	2	国枝 智樹		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MHJN1362	秋	論文演習 I b	JRN517-28j00	2	奥山 俊宏		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1372	秋	論文演習 I b	JRN517-28j00	2	高橋 直治		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN1382	秋	論文演習 I b	JRN517-28j00	2	アルン デソーザ		M1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2032	秋	論文演習 II b	JRN602-28j00	2	音 好宏		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2062	秋	論文演習 II b	JRN602-28j00	2	渡邊 久哲		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2072	秋	論文演習 II b	JRN602-28j00	2	阿部 るり		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2082	秋	論文演習 II b	JRN602-28j00	2	柴野 京子		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2102	秋	論文演習 II b	JRN602-28j00	2	水島 宏明		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2112	秋	論文演習 II b	JRN602-28j00	2	国枝 智樹		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2122	秋	論文演習 II b	JRN602-28j00	2	奥山 俊宏		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2132	秋	論文演習 II b	JRN602-28j00	2	高橋 直治		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN2042	秋	論文演習 II b	JRN602-28j00	2	アルン デソーザ		M2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
MHJN7060	秋	マス・メディア論演習	JRN503-28j00	2	柴野 京子		
MHJN7102	秋	マス・コミュニケーション法制特講 II	JRN527-28j00	2	* 植田 記康		後期課程「マス・メディア論特殊研究 II b」と合併
MHJN7112	秋	米州のマス・メディア論特講 II	JRN515-28j00	2	* 尾崎 元		
MHJN7160	秋	新聞論特講 II	JRN505-28j00	2	奥山 俊宏		後期課程「マス・メディア論特殊研究 I b」と合併
MHJN7180	秋	放送論特講 II	JRN507-28j00	2	水島 宏明		
MHJN7200	秋	国際コミュニケーション論特講 II	JRN509-28j00	2	阿部 るり		
MHJN7220	秋	情報科学論特講 II	JRN511-28j00	2	音 好宏		
MHJN7240	秋	マス・コミュニケーション調査特講 II	JRN513-28j00	2	渡邊 久哲		
MHJN7260	秋	広報論特講 II	JRN529-28e00	2	国枝 智樹	○	
MHJN9210	秋	修士論文	JRN699-28j00	0	新聞学専攻各指導教員		M2 対象
MHJN7040	休講	ジャーナリズム史演習	JRN502-28j00	2			
MHJN7050	休講	広告論特講 I	JRN518-28j00	2			
MHJN7070	休講	広告論特講 II	JRN519-28j00	2			

前期課程「論文演習 I a」, 「論文演習 II a」 / 後期課程「論文演習 I a」, 「論文演習 II a」, 「論文演習 III a」
 前期課程「論文演習 I b」, 「論文演習 II b」 / 後期課程「論文演習 I b」, 「論文演習 II b」, 「論文演習 III b」

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
JRN599-28j00	音 好宏	
	渡邊 久哲	
	水島 宏明	
	阿部 るり	
	柴野 京子	
	国枝 智樹	
	奥山 俊宏	
	高橋 直治	

新聞学専攻 博士後期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

【17年次生以降】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	12		
授業科目			
・必修科目	12		
└論文演習Ⅰa	2		
└論文演習Ⅰb	2		
└論文演習Ⅱa	2		
└論文演習Ⅱb	2		
└論文演習Ⅲa	2		
└論文演習Ⅲb	2		
研究指導（必修）		6	単位なし, 在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に 合格すること

【16年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	12		
授業科目			
・必修科目	12		
└論文演習Ⅰa	2		
└論文演習Ⅰb	2		
└論文演習Ⅱa	2		
└論文演習Ⅱb	2		
└論文演習Ⅲa	2		
└論文演習Ⅲb	2		
研究指導（必修）			単位なし, 在学中毎学期登録される
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に 合格すること

【研究指導スケジュール】

事項	期日	対象	備考
博士後期課程必要単位の履修	4月以降	D1以上	
博士後期課程研究計画書の提出	5月上旬	D1以上	
博士論文計画書の提出	5月上旬	D1以上	
博士論文提出資格試験		D3以上	専攻に申請後, 専攻の許可に基づき実施。
博士論文の提出		D3以上	
博士論文審査・口述試験		D3以上	博士論文提出後, 半年以内に実施。

【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 問題意識が明確で、テーマが十分に絞り込まれていること。
- 2) 先行研究を十分に検討・吟味し、引用が的確になされていること。
- 3) 研究目的に照らして、研究のデザイン・分析方法等が適切であること。
- 4) 論文構成が的確で、論理展開に整合性・一貫性があること。
- 5) 論文の言語表現が的確で正しく、目次・注釈等に関する体裁が整っていること。
- 6) 得られた知見にオリジナリティがあり、新聞学の研究に寄与するものであること。
- 7) 執筆者に今後研究者として自立して研究を遂行していく能力があることを示すものであること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
コミュニケーション論特殊研究 I a			2
コミュニケーション論特殊研究 I b			2
コミュニケーション論特殊研究 II a			2
コミュニケーション論特殊研究 II b			2
コミュニケーション論特殊研究演習 I			2
コミュニケーション論特殊研究演習 II			2
ジャーナリズム史特殊研究 I			2
ジャーナリズム史特殊研究 II			2
ジャーナリズム史特殊研究演習 I a			2
ジャーナリズム史特殊研究演習 I b			2
マス・メディア論特殊研究 I a			2
マス・メディア論特殊研究 I b			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
マス・メディア論特殊研究 II a			2
マス・メディア論特殊研究 II b			2
マス・メディア論特殊研究演習 I			2
マス・メディア論特殊研究演習 II			2
論文演習 I a	2		
論文演習 I b	2		
論文演習 II a	2		
論文演習 II b	2		
論文演習 III a	2		
論文演習 III b	2		

3. 履修上の注意

- 1) 後期課程論文演習は半期ごとに2単位、3年間で計12単位を履修すること。
- 2) 指導教員の「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件を参照すること。
- 3) 博士論文執筆にあたっては専攻規定（2011年4月1日改訂）を参照のこと。なお、学位論文未提出にて満期退学する場合も、研究成果（修士論文レベル）を提出し、指導教員ならびに専攻の承認を得なければならない。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
DHJN3010	春	コミュニケーション論特殊研究 Ia	JRN807-28j00	2	渡邊 久哲		前期課程「コミュニケーション論特講 I」と合併
DHJN3231	春	論文演習 I a	JRN801-28j00	2	音 好宏		D1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN3261	春	論文演習 I a	JRN801-28j00	2	渡邊 久哲		D1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN3271	春	論文演習 I a	JRN801-28j00	2	水島 宏明		D1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN3251	春	論文演習 I a	JRN801-28j00	2	柴野 京子		D1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN3241	春	論文演習 I a	JRN801-28j00	2	阿部 るり		D1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN4031	春	論文演習 II a	JRN803-28j00	2	音 好宏		D2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN4061	春	論文演習 II a	JRN803-28j00	2	渡邊 久哲		D2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN4071	春	論文演習 II a	JRN803-28j00	2	水島 宏明		D2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN4051	春	論文演習 II a	JRN803-28j00	2	柴野 京子		D2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN4041	春	論文演習 II a	JRN803-28j00	2	阿部 るり		D2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN5031	春	論文演習 III a	JRN805-28j00	2	音 好宏		D3 (20 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN5061	春	論文演習 III a	JRN805-28j00	2	渡邊 久哲		D3 (20 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN5071	春	論文演習 III a	JRN805-28j00	2	水島 宏明		D3 (20 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN5051	春	論文演習 III a	JRN805-28j00	2	柴野 京子		D3 (20 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN5041	春	論文演習 III a	JRN805-28j00	2	阿部 るり		D3 (20 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN7020	春	コミュニケーション論特殊研究 II a	JRN809-28j00	2	渡邊 久哲		
DHJN7030	春	コミュニケーション論特殊研究演習 I	JRN811-28j00	2	高橋 直治		
DHJN7040	春	ジャーナリズム史特殊研究 I	JRN813-28j00	2	鈴木 雄雅		前期課程「ジャーナリズム史特講 I」と合併
DHJN7060	春	マス・メディア論特殊研究 Ia	JRN817-28j00	2	奥山 俊宏		前期課程「新聞論特講 I」と合併
DHJN7070	春	マス・メディア論特殊研究 II a	JRN819-28j00	2	* 清水 直樹		前期課程「マス・コミュニケーション法制特講 I」と合併
DHJN7080	春	マス・メディア論特殊研究演習 I	JRN821-28j00	2	音 好宏		
DHJN3011	秋	コミュニケーション論特殊研究 Ib	JRN808-28j00	2	渡邊 久哲		前期課程「コミュニケーション論特講 II」と合併
DHJN3232	秋	論文演習 I b	JRN802-28j00	2	音 好宏		D1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN3262	秋	論文演習 I b	JRN802-28j00	2	渡邊 久哲		D1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN3272	秋	論文演習 I b	JRN802-28j00	2	水島 宏明		D1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN3252	秋	論文演習 I b	JRN802-28j00	2	柴野 京子		D1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN3242	秋	論文演習 I b	JRN802-28j00	2	阿部 るり		D1 (22 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN4032	秋	論文演習 II b	JRN804-28j00	2	音 好宏		D2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN4062	秋	論文演習 II b	JRN804-28j00	2	渡邊 久哲		D2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN4072	秋	論文演習 II b	JRN804-28j00	2	水島 宏明		D2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN4052	秋	論文演習 II b	JRN804-28j00	2	柴野 京子		D2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN4042	秋	論文演習 II b	JRN804-28j00	2	阿部 るり		D2 (21 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN5032	秋	論文演習 III b	JRN806-28j00	2	音 好宏		D3 (20 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN5062	秋	論文演習 III b	JRN806-28j00	2	渡邊 久哲		D3 (20 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN5072	秋	論文演習 III b	JRN806-28j00	2	水島 宏明		D3 (20 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN5052	秋	論文演習 III b	JRN806-28j00	2	柴野 京子		D3 (20 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN5042	秋	論文演習 III b	JRN806-28j00	2	阿部 るり		D3 (20 年次生) 対象, 注 1 参照
DHJN7021	秋	コミュニケーション論特殊研究 II b	JRN810-28j00	2	渡邊 久哲		
DHJN7031	秋	コミュニケーション論特殊研究演習 II	JRN812-28j00	2	アルン デソーザ		
DHJN7041	秋	ジャーナリズム史特殊研究 II	JRN814-28j00	2	鈴木 雄雅		前期課程「ジャーナリズム史特講 II」と合併
DHJN7061	秋	マス・メディア論特殊研究 Ib	JRN818-28j00	2	奥山 俊宏		前期課程「新聞論特講 II」と合併

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
DHJN7071	秋	マス・メディア論特殊研究Ⅱb	JRN820-28j00	2	* 植田 記康		前期課程「マス・コミュニケーション法制特講Ⅱ」と合併
DHJN7081	秋	マス・メディア論特殊研究演習Ⅱ	JRN822-28j00	2	音 好宏		
DHJN7050	休講	ジャーナリズム史特殊研究演習Ⅰa	JRN815-28j00	2			
DHJN7051	休講	ジャーナリズム史特殊研究演習Ⅰb	JRN816-28j00	2			

注1: 論文演習については以下の通り合同で行う(合併科目)

前期課程「論文演習Ⅰa」, 「論文演習Ⅱa」 / 後期課程「論文演習Ⅰa」, 「論文演習Ⅱa」, 「論文演習Ⅲa」

前期課程「論文演習Ⅰb」, 「論文演習Ⅱb」 / 後期課程「論文演習Ⅰb」, 「論文演習Ⅱb」, 「論文演習Ⅲb」

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
JRN899-28j00	音 好宏	
	柴野 京子	
	渡邊 久哲	
	水島 宏明	
	阿部 るり	

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考 (上限, その他)
総単位数	30		
授業科目			
・必修科目	4		
└論文作成法 I A	2		
└論文作成法 I B	2		
・選択科目	26		
└自専攻科目			
└自研究科他専攻科目			
└委託聴講科目			国際連合大学との委託聴講科目 (4単位まで)
研究指導 (必修)		4	単位なし, 在学中毎学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および試験に 合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文 登録をすること)

【研究指導スケジュール】

◆1年次： 修士論文のテーマと構成をかためるため、資料や考察範囲の検討を進める。

4月	指導教員の決定と「研究計画書」の提出 →指導教員に自主的に相談し、定期的に検討の経過を報告して助言を得ること。 →指導教員との面談希望は1週間以上前に専攻事務室へ申し出ること（または指導教員からの直接の指示に従うこと）。
9月下旬	「修論中間発表会」への討議参加（出席は義務）
～1月	修士論文のテーマ・構成をかためる（指導教員に報告して助言を得る）

◆2年次： 以下のスケジュールで修士論文の完成・提出をめざす。

4月	論文のテーマ・構成を確定（指導教員に章立てを提出）
7月上旬	「修論構想発表会」（論文要旨・発表資料を準備）
9月下旬	「修論中間発表会」までに下書きを完成
～11月	下書きを修正
～12月	論文を清書
～1月中旬	総点検と提出 →それぞれの段階で自主的に指導教員に相談・報告し助言を得ること。
2月中旬：	口頭試問

*** 修士論文作成に際しての重要注意事項 ***

- a. 上記のスケジュールに従い、修士論文提出予定年度の4月中に、最終的な論文構成（章立て）を指導教員に提出すること。
- b. 指導教員は相談に対する助言や提案を与えるのみで、論文原稿の修正・訂正等は直接行わない。日本語表現・誤字・脱字等については自身の責任で整備すること。
- c. 日本語表現や論文体裁についての相談・助言は、文化交渉学専攻 RA および文学研究科 PD にも依頼できる。ただし、指定された時間内に余裕をもって依頼すること。
- d. 9月の中間発表またはそれ以降の下書き段階で準備不足と判断されると、その年度の審査には値しないものとみなされ、修論提出の延期を勧告される場合がある。
- e. 修士論文を書き上げるためには、2年間は決して充分余裕のある時間ではないので、計画的な努力を心がけること（途中でテーマを大幅に変更した場合、指導教員の変更も必要となり、2年間での修了は見込めなくなるので、1年次から綿密に論文計画を練ること）。
- f. その他、「修士論文の手引き」を参照すること。

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 明確な問題意識により課題設定がなされ、それにふさわしい方法論がとられていること。
- 2) 既存の研究成果を適確にふまえ、批判的に継承されていること。
- 3) 論文構成が適切で、論理展開に整合性と一貫性があること。
- 4) 考察および結論に独創性があり、専攻分野に対して、何らかの貢献が行われていること。
- 5) 全体として、専攻分野に関して、執筆者が十分な研究能力を有していることを証する論文であること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
論文作成法ⅠA	2		
論文作成法ⅠB	2		
異文化研究特講ⅠA			2
異文化研究特講ⅠB			2
異文化研究特講ⅡA			2
異文化研究特講ⅡB			2
文化交渉学特講ⅠA			2
文化交渉学特講ⅠB			2
文化交渉学特講ⅡA			2
文化交渉学特講ⅡB			2
文化交渉学特講ⅢA			2
文化交渉学特講ⅢB			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
翻訳文化研究ⅠA			2
翻訳文化研究ⅠB			2
翻訳文化研究ⅡA			2
翻訳文化研究ⅡB			2
翻訳文化研究ⅢA			2
翻訳文化研究ⅢB			2
芸術文化研究ⅠA			2
芸術文化研究ⅠB			2
芸術文化研究ⅡA			2
芸術文化研究ⅡB			2
芸術文化研究ⅢA			2
芸術文化研究ⅢB			2
(他) 分野横断研究法：原理と技法			2

3. 履修上の注意

- 「論文作成法ⅠA」および「論文作成法ⅠB」は必修科目なので、1年次に必ず履修すること。
- 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件を参照すること。
- 学位規程、博士前期課程の研究スケジュール（4月初旬の専攻別ガイダンスで配布）に従って、修士論文を作成すること。また、毎年度4月に提出する研究計画書に基づき、各指導教員から個別に指導を受けること。
- 「(他) 分野横断研究法：原理と技法」（総合人間科学研究科心理学専攻開講 2022年度秋学期 金曜日5時限 2単位科目）について

分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設される。本科目により修得した単位は、自専攻科目として修了に必要な単位に算入される。

定員30名の抽選科目となるので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2022年度履修要覧〔ガイド・資料編〕p.31を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MHCU1010	春	論文作成法 I A	CUI501-30j00	2	長田 彰文		M1 対象。自専攻のみ履修可
MHCU1020	秋	論文作成法 I B	CUI502-30j00	2	木村 洋		M1 対象。自専攻のみ履修可
MHCU7010	春	異文化研究特講 I A	CUI503-30m00	2	CHEETHAM Dominic		
MHCU7020	休講	異文化研究特講 I B	CUI504-30m00	2	CHEETHAM Dominic		
MHCU7030	春	異文化研究特講 II A	CUI505-30j00	2	* 佐藤 光		
MHCU7040	秋	異文化研究特講 II B	CUI506-30j00	2	* 佐藤 光		
MHCU7050	春	文化交渉学特講 I A	CUI507-30j00	2	(他)川口 茂雄		後期課程「文化交渉学特殊研究 I A」と合併
MHCU7060	休講	文化交渉学特講 I B	CUI508-30j00	2			後期課程「文化交渉学特殊研究 I B」と合併
MHCU7070	春	文化交渉学特講 II A	CUI509-30j00	2	(他)原 敬子		後期課程「文化交渉学特殊研究 II A」と合併
MHCU7080	秋	文化交渉学特講 II B	CUI510-30j00	2	(他)原 敬子		後期課程「文化交渉学特殊研究 II B」と合併
MHCU7090	春	文化交渉学特講 III A	CUI511-30j00	2	(他)福田 耕介		後期課程「文化交渉学特殊研究 III A」と合併
MHCU7100	秋	文化交渉学特講 III B	CUI512-30j00	2	長田 彰文		後期課程「文化交渉学特殊研究 III B」と合併
MHCU7110	春	翻訳文化研究 I A	CUI513-30j00	2	三輪 玲子		
MHCU7120	秋	翻訳文化研究 I B	CUI514-30j00	2	三輪 玲子		
MHCU7130	春	翻訳文化研究 II A	CUI515-30j00	2	(他)飯野 友幸		
MHCU7140	秋	翻訳文化研究 II B	CUI516-30j00	2	實谷 総一郎		
MHCU7150	休講	翻訳文化研究 III A	CUI517-30j00	2	三輪 玲子		
MHCU7160	休講	翻訳文化研究 III B	CUI518-30j00	2	三輪 玲子		
MHCU7170	春	芸術文化研究 I A	CUI519-30j00	2	木村 洋		
MHCU7180	秋	芸術文化研究 I B	CUI520-30j00	2	(他)桑原 俊介		
MHCU7190	春	芸術文化研究 II A	CUI521-30j00	2	* 齊藤 貴子		
MHCU7200	秋	芸術文化研究 II B	CUI522-30j00	2	* 齊藤 貴子		
MHCU7210	春	芸術文化研究 III A	CUI523-30j00	2	* 川瀬 佑介		
MHCU7220	秋	芸術文化研究 III B	CUI524-30j00	2	* 鈴木 啓子		
MHCU9010	秋	修士論文	CUI699-30j00	0	文化交渉学専攻 各指導教員		M2 対象
MHPS7900	秋	分野横断研究法：原理と技法	PSY700-82j00	2	コーディネータ (他)松田 修 (総合人間科学研究科)		輪講 [30名] 博士前期課程または修士課程1年次生対象 (他)総合人間科学研究科心理学専攻開講

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
CUI599-30j00	長田 彰文	
	木村 洋	
	CHEETHAM Dominic	
	三輪 玲子	

文化交渉学専攻 博士後期課程

1. 修了に要する科目, 単位数, 科目数などの要件

【18年次生以降】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数	6		
↳ 選択科目	6		
↳ 自専攻科目			
研究指導（必修）		6	単位なし, 在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に 合格すること

【17年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数			
研究指導（必修）		6	単位なし, 在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に 合格すること

【12～16年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限, その他）
総単位数			
研究指導（必修）			単位なし, 在学中毎学期登録される
博士論文			必要な研究指導を受けた上, 博士論文の審査および試験に 合格すること

【研究指導スケジュール】

◆博士論文の提出手順

DC3年在籍後、レフリー付の雑誌に掲載された論文が2本以上あること（紀要は内容を勘案して数える）

～4月末	「予備論文」を提出して意志表明すること
～5月下旬	論文提出の可否を決定・通達
6月末	（遅くとも夏休み前）に正式な論文提出

※当該年度の4月末までに「予備論文」（微修正のみで提出論文そのものとなりうる下書き）を提出する必要があるの
で、博士論文執筆予定者は、その点を充分考慮の上、提出計画を立てること。

◆博士論文の計画方法

1. 博士論文執筆に備えて「休学」を希望する場合は、必ず従来の指導教員の面談を受けて了承を得ること（休学期間も従来の指導教員を相談窓口とすること）。

2. 提出計画に入り次第、まず、提出までのおおよそのスケジュール（今後の在学・休学計画および提出予定年度など）を、現在の指導教員に書面で提出の上、相談すること。
3. 他専攻で適用されている特例などは、新設専攻の文化交渉には適用されないので、必ず学事センターと指導教員の双方に確認を取りながら計画を進めること。

※博士論文に関する共通の通達事項は、専攻主任または専攻事務室からのメール回覧や文書配布によって伝えられる。

◆参考：「博士の学位授与に関する文化交渉学専攻内規」（2018年4月1日制定）

◆論文再入学の場合も、博士論文提出資格審査（予備論文等の審査）は、原則、年度初めの4～5月に行う。従って、論文再入学は、原則、秋学期入学となる（以下、参照）。

* 文化交渉学専攻 博士後期課程満期退学後の論文再入学 *

論文再入学は、「大学院博士後期課程の論文再入学に関する規程」（上智大学大学院の共通規程）と「博士の学位授与に関する文化交渉学専攻内規」の双方の条件を満たした場合に可能となる。

◆入学手続きに要する費用(2021年4月1日時点)

130,800円＋検定料10,000円

審査期間が6か月以内で終わらず延びる場合は、在籍料30,000円がかかる。

(ただし、残余在学期間が6ヶ月しかない場合は延長することはできない。)

◆「大学院博士後期課程の論文再入学に関する規程」第2条・第3条について

文化交渉学専攻内規に照らして、博士論文提出資格審査（予備論文等の審査）は、原則、年度初めの4～5月に行い、予備論文等は論文再入学の遅くとも6ヶ月前に提出しなければならないため、論文再入学は、原則、秋学期入学となる。

例) 2020年3月31日(2019年度)付満期退学で残余在学期間1年の場合

→学事規程上の論文再入学の期限は2023年4月(2020年度から3年度後)であるが、文化交渉学専攻内規に照らして、論文再入学の期限は2022年9月、予備論文等の提出期限は2022年3月となる。

※審査期間が6ヶ月を超える場合、延長することができる(在籍料30,000円)。

例) 2020年9月20日(2020年度)付満期退学で残余在学期間6ヶ月の場合

→学事規程上の論文再入学の期限は2024年4月(2021年度から3年度後)であるが、文化交渉学専攻内規に照らして、論文再入学の期限は2023年9月、予備論文等の提出期限は2023年3月となる。

※審査期間は6ヶ月を超えることはできない(延長できない)。

【注意事項】満期退学後に論文再入学を目指す場合は、在籍時の指導教員から定期的に適切な指導を受け、承諾を得た上で予備論文等を提出すること。

【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 明確な問題意識により課題設定がなされ、それにふさわしい方法論がとられていること。
- 2) 既存の研究成果を適確にふまえ、批判的に継承されていること。
- 3) 論文構成が適切で、論理展開に整合性と一貫性があること。

- 4) 独創的知見を有し、専攻分野の学術的發展におおいに寄与するものであること。
- 5) 全体として、専攻分野に関して、執筆者が研究者として自立して研究活動を継続することのできる高度の研究能力、およびその基礎となる十分な学識を有することを証する内容の論文であること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
文化交渉学特殊研究ⅠA			2
文化交渉学特殊研究ⅠB			2
文化交渉学特殊研究ⅡA			2
文化交渉学特殊研究ⅡB			2
文化交渉学特殊研究ⅢA			2
文化交渉学特殊研究ⅢB			2

3. 履修上の注意

- 1) 2018年次生以降は、後期課程在籍中に開講科目の中から最低6単位を修得すること。
- 2) 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、2017年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件を参照すること。
- 3) 学位規程、博士後期課程の研究スケジュール（4月初旬の専攻別ガイダンスで配布）に従って、研究に従事し、博士号の取得をめざすこと。また、毎年度4月に提出する研究計画書に基づき、各指導教員から個別に指導を受けること。

4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
DHCU7010	春	文化交渉学特殊研究ⅠA	CUI801-30j00	2	(他)川口 茂雄		前期課程「文化交渉学特講ⅠA」と合併
DHCU7030	春	文化交渉学特殊研究ⅡA	CUI803-30j00	2	(他)原 敬子		前期課程「文化交渉学特講ⅡA」と合併
DHCU7050	春	文化交渉学特殊研究ⅢA	CUI805-30j00	2	(他)福田 耕介		前期課程「文化交渉学特講ⅢA」と合併
DHCU7020	休講	文化交渉学特殊研究ⅠB	CUI802-30j00	2			前期課程「文化交渉学特講ⅠB」と合併
DHCU7040	秋	文化交渉学特殊研究ⅡB	CUI804-30j00	2	(他)原 敬子		前期課程「文化交渉学特講ⅡB」と合併
DHCU7060	秋	文化交渉学特殊研究ⅢB	CUI806-30j00	2	長田 彰文		前期課程「文化交渉学特講ⅢB」と合併

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
CUI899-30j00	長田 彰文	
	木村 洋	
	CHEETHAM Dominic	
	三輪 玲子	